

# 茗溪



正月

2023

令和5年

no.1115

## 目次

- グラビア …… 01
- 茗溪創基 150 年記念基金について …… 02 ~ 04
- 新年のご挨拶 茗溪会理事長 井口武雄 …… 05
- 年頭挨拶 筑波大学長 永田恭介 …… 06
- 令和4年度 教職相談窓口一覧 …… 07
- 令和4年度 追悼のつどい報告 …… 08 ~ 09
- 知の提供・誌上講座  
「宇宙からの天体観測を支える技術」 …… 10 ~ 11
- 医薬関係者のつどい報告 …… 12 ~ 13
- Peer Garden (茗溪アルバム) …… 14 ~ 18
- 著書紹介 …… 19
- 茗溪・東西南北 …… 20 ~ 21
- 桐の葉のつどい …… 22
- 追悼録 …… 23
- 筑波大学は今 …… 24    ■ 茗溪学園だより …… 25
- 令和4年秋の叙勲おめでとうございます …… 26
- 広報 …… 26    ■ 表紙のことば …… 26
- 編集後記 …… 26



# 桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群  
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群  
グローバル・コミュニケーション学群  
航空・マネジメント学群  
教育探求科学群 (2023年4月開設予定)  
※設置準備構想中

桜美林学園 理事長・小池 一夫  
学長 畑山 浩昭  
入学部相談役 川田 孝一 (昭39教大総農)

### 【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758  
桜美林大学入学部インフォメーションセンター  
Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



地域と歩み、次代を創る。

# SEKISHO

SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



## 関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151  
茗溪会担当: 取締役 常務執行役員 岡本 俊一  
(昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<https://www.sekisho.co.jp/>



# 力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。



- 工学部
  - 機械工学科 機械工学コース
  - 機械工学科 航空宇宙学コース
  - 電気電子情報工学科
  - 応用化学科
- 創造工学部
  - 自動車システム開発工学科
  - ロボット・メカトロニクス学科
  - ホームエレクトロニクス開発学科
- 応用バイオ科学部
  - 応用バイオ科学科 応用バイオコース
  - 応用バイオ科学科 生命科学コース
- 情報学部
  - 情報工学科
  - 情報ネットワーク・コミュニケーション学科
  - 情報メディア学科
- 健康医療科学部
  - 看護学科(看護師・保健師養成課程)
  - 管理栄養学科(管理栄養士養成課程)
  - 臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

教職センター 大畑多津雄 (S52 理) (神奈川茗溪会会 長)  
I R 室 望月 正大 (S51 理) ( 同 副会長)  
公務員対策室 林 忠 (S58第1自)



# 神奈川工科大学

KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030  
TEL.046-291-3002 URL:<https://www.kait.jp/>



# 追悼のつどい

令和4年11月5日(土)

於 茗溪会館

(P.8～9参照)



井口理事長・真田理事（学長挨拶代読）



集合写真



懇談会



追悼式





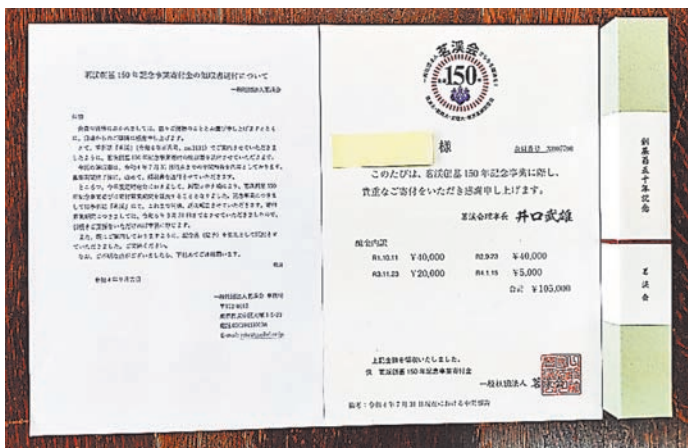
## 寄付者銘板

茗溪会館5階ロビーに銘板があります。「茗溪創基150年記念高額寄付者御芳名一覧」とあり、8口以上の寄付を頂いた会員の御芳名を銘板に記させていただいています。1枚105名分が納まります。また、穆談会、茨城茗溪会、東京茗溪会、神奈川茗溪会など団体名も見受けられます。ぜひ、ご検討ください。

7月9日(土)、記念式典を盛会裏に終えることができ、一段落といったところですが、記念事業はまだ続きます。これまで(令和4年3月末日)ご寄付をいただいた方々への礼状と領収書、そして返礼品(扇子)をお送りさせていただきましたが、届きましたでしょうか。領収書につきましては、江田前理事長の「額に飾れるような」という指示で、構成や紙質にもこだわりました。近所の印刷業者に助言を頼み、和風の特用紙を採用する凝りようです。

# 茗溪創基150年 記念基金

◎寄付申込額 24,846,794円 (8,945,000円)  
 ◎寄付申込者 1,084名 (568名)  
 ・平均寄付額 22,921円 (15,749円)  
 (2022/7/31現在、枠内は2020/3/25のもの)



記念品の扇子

- そして、お礼の品です。すでに御案内させていただきましたが、あらためて、説明させていただきます。
- ご寄附された方々への返礼
- (1) 返礼の扇子は、一口(5,000円)以上のご寄附をされた方に限り、贈呈させていただきます。
  - (2) 6口(3万円)以上のご寄附をされた方には、扇子の他に、記念誌を贈呈させていただきます。
  - (3) 8口(4万円)以上のご寄附をされた方には、扇子と記念誌を贈呈させていただきます。さらに茗溪会館の高額寄付者銘板に記名させていただきます。







茗溪創基150年 協力者ご芳名 ご協力ありがとうございます

2022年12月15日現在

※ご寄付いただきました方の中で、掲載をご希望されない方を除いています。(ご協力者人数 972名)

Table listing names of donors in vertical columns, organized by family name (e.g., 金, 久下, 日下部, etc.).



# 新年のご挨拶

一般社団法人 茗溪会

理事長 井口 武雄



あけましておめでとうございます。  
茗溪会の会員の皆様におかれましては  
お元気に新年をお迎えになられた  
こととお慶びを申し上げます。

コロナ禍が始まりましてからもうす  
ぐ4年になります。昨年までの3年間、  
生活はもとより業務に大きな影響が生  
じました。茗溪会におきましても多く  
の会合や行事が中止または延期となり  
会員の皆様にご迷惑をおかけすること  
となりました。早くこの禍がおさまり、

皆様の生活や業務が元に戻りますよう  
祈るばかりでございます。そして茗溪  
会の活動も活発に行い、会員の皆様の  
お役に立てるようになりますことを願  
っております。

茗溪会は1872年に創基され、昨  
年茗溪創基150年を迎えました。多くの  
記念行事を計画しておりましたが、残  
念ながら延期をせざるを得ないものも  
ございました。このような環境の中  
でございましたが、7月9日に記念式典  
を開催することが出来ましたことは大  
きな喜びでございました。感染を防ぐ  
為、ご出席をいただく方の人数に制限  
をせざるを得ず、ご希望の方全員の  
ご出席がかなわず申し訳なく思っており  
ます。

150周年の記念の品に扇をお届け致し  
ました。この扇には1893年に母校  
の前身である高等師範学校の校長に  
就任された嘉納治五郎先生の名言「自  
他共栄」が記されております。このお  
言葉は今なお我々の指針となるもの  
でございます。大変幸いなことに、この  
お言葉を中村伸夫先生が古代文字で揮  
毫して下さいました。今年も記念誌が  
発行される予定になっております。ま  
た延期をされました「茗溪・筑波産業

人倶楽部全国展開発表の会」が開かれ  
ることになり、これで150周年の大きな  
行事は終了いたします。次の歴史が昨  
年始まりました。

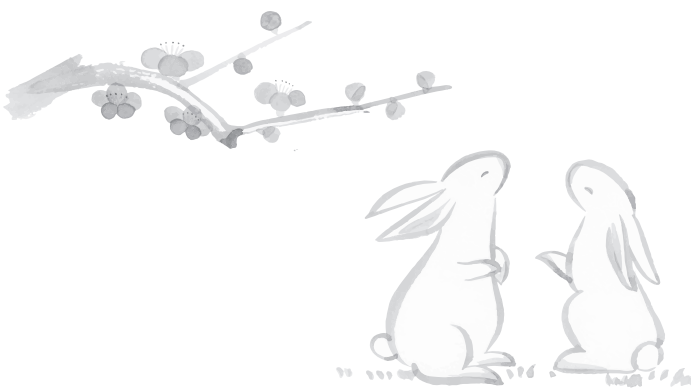
茗溪会は会員の皆様が明るく元気に  
語り合い活動できる場であり続けるこ  
とを目指しておりますが、大きな課題  
を克服していかなければならないこと  
も事実であります。新年早々で申し訳  
ございませんが次に課題を述べさせて  
いただきます。

その一つは財務内容の改善でありま  
す。残念ながら会員の全員の皆様から  
は会費をお支払いいただけていないこ  
とと、新規会員のご加入が減っている  
ことから単年度の収支は厳しいもの  
になっております。事務局のご努力によ  
って経費の削減は実現しておりますが、  
収入の減少がそれを上回っております。  
会員の皆様が会費を支払う価値をいか  
に作り出すか、多くの会員の皆様に会  
費をお支払いいただくための制度と活  
動をどのようにするのが良いのか、を  
検討して早期に実行したいと思えます。

その二は筑波大学の卒業生の皆様に  
茗溪会に入っていただくことでありま  
す。現在の茗溪会の新規の会員は筑波

大学の卒業生が中心であります。筑波  
大学の卒業生が加入したくなる茗溪会  
はどのようなものが良いのか、このこ  
とについても早期に検討して実行に移  
さなければならぬと思えます。会員  
の皆様にはこの二つの大きな課題につ  
いてのお考えをお寄せいただきますと  
ともに対策の実行にあたっては万全の  
ご協力をお願い申し上げます。

新しい年が会員の皆様にとりまして  
幸せいっぱいの年となりますことをお  
祈りいたし、新年の挨拶いたします。



# 筑波大学長年頭挨拶



筑波大学長  
永田 恭介

明けましておめでとうございます。  
旧年中は、著溪会の皆様には様々なご支援をいただき誠にありがとうございました。

猛威を奮っている新型コロナウイルス感染症は、残念ながら第8波を迎えてしまいました。そのような状況ですが、昨年6月から、授業について、本学は「対面授業」または「対面授業とオンデマンドの組み合わせ」により実施することを基本的な方針として、オンラインの良さを活かしつつ、原則オンラインサイトで実施しています。また、昨年は3年ぶりにオープンキャンパスや学園祭を対面開催するなど十分な感染対策を取った上でウイズコロナの新しい日常活動を始めています。

昨年の秋には、東京大学、大阪大学に次ぐ3校目となる「大学債」を発行しました。今後は三つの事業プランを予定していきます。一つ目は「ITF Forum」(IMAGINE THE FUTURE. Forum)



未来社会デザイン棟



Sport Complex for Tomorrow



ITF Forum (※全日本バス)

(仮称)という、社会実装を目指してニーズドリブン型共同研究及び実証研究を推進するための開発施設の建設です。二つ目はスポーツの複合施設である「Sport Complex for Tomorrow(仮称)」です。現在のハンドボールコートエリアに、バリアフリーに留意した合宿施設やバスポートも可能なアリーナなどを建設するものです。そして三つ目が「未来社会デザイン棟(仮称)」の建設です。これは現在の学生宿舍のリニューアル計画の一部として、学生

がグローバル社会や産業界とつながる「場」となります。これらの事業を含め、本学は「真の総合大学」を目指し、これまで以上に「不変の改革」を進めていく決意です。

昨年から、第4期中期目標期間が始まりました。「エンゲージメントの強化」と「固定化された社会の変革」を目指して、歩を進めています。どちらも建学の理念に述べられているポイントです。エンゲージメントは、契約、約束な

どを意味しますが、本質的にはある対象への愛着や没頭、自発的な貢献意欲などを意味しているものと解釈しています。つまり大学と多様なステークホルダーが互いに貢献し合うということだと考えています。分断や差別などで固定化された社会をより良い社会に、well-beingが実感できる社会に変えていかなければなりません。そして、指定国立大学法人としての日々も始まっています。指定国立大学法人は、世界最高水準の教育研究活動の展開が相当程度見込まれる国立大学法人を文部科学大臣が指定するものです。これまでに10の大学(東北、筑波、東京、東京工業、一橋、東京医科歯科、名古屋、京都、大阪、九州)が指定を受けています。長年の先輩諸氏の弛まぬご努力とそれにより挙げられた数々の成果の上に認められたものであり、教職員、学生一同、気持ちを引き締めて、教育・研究はもとより日々の活動を進めてまいります。また、昨年の12月には、国際卓越研究大学の公募が始まりました。世界最高水準の研究大学の実現に向けて、応募する予定でいます。

本学は、本年の元旦を迎えるとともに、師範学校から数えて創基150年を迎え、9ヶ月後には筑波大学は開学50周年を迎えます。記念式典(開学50周年・創基150年)のための準備も着々と進んでいます。これまでに築き上げてきたレガシー、様々な教育・研究の成果を礎に、次の50年に向かってしっかりと



ラッピングバス(高速バス「つくば号」)



カウンタートップボード

歩み続けなければなりません。研究力と人材育成力を磨き上げ、世界に伍する大学へと成長できるように研鑽を続けなければなりません。加えて、その記念日が過ぎれば、法人化後20年を迎えます。法人化とは、国立大学の経営体への転換を意味しています。国からの運営費交付金は大学活動の基盤を支えるものではあっても、大学の夢を叶えるためには全く十分なものではありません。本学の経営強化を図り、全筑波大学人が協力して、本学の夢、本学に関わる者と関わった者の夢、本学に期待してくれている人々の夢を実現してまいります。

本学は激動するグローバル社会の中で、社会を変革するエンジンとして、世界的なインパクトを生み出し、社会の既存の価値を変えるような教育・研究を行う決心です。伝統ある貴会と同窓生諸兄弟には、ますますのご発展を祈念申し上げますとともに、本学の様々な活動にご理解をいただき、本年も引き続きご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。



## 令和4・5年度 教職相談窓口 一覧

社会連携課教職サポートルーム相談窓口 (R4.4.1～R5.3.31)

2022.12.2 現在

名称	姓名	卒年	卒科・群	役職1(茗溪会関係)	役職2(自治体)
連携課	武井 秀一	昭51	教大化	教職部会委員	元/土浦第一高等学校 校長
連携課	青砥 武夫	昭55	筑二農林	会員	元/水戸農業高等学校 校長
連携課	佐藤 達	昭53	教大農化	会員	元/水戸市立第四中学校 校長
連携課	植木 邦夫	昭58	筑二人間	教職部会委員	前/土浦第一高等学校 校長

### 茗溪会窓口 (R4.9.1～R5.8.31)

番号	自治体	姓名	卒年	卒科・群	役職1(茗溪会関係)	役職2(自治体)
1	北海道	川口 淳	昭58	筑修教	支部長、代議員	札幌龍谷学園高等学校 校長
2	青森	前田 済	昭59	筑一自	支部長、代議員	青森大学 教授
3	岩手	高橋 縁	昭60	筑二人間	支部長、代議員	県立盛岡視覚支援学校 校長
4	宮城	齊 隆	昭57	筑一自	前/支部長、顧問	岩沼市教育委員会教育総務課 教育指導専門監
5	秋田	永井 元	昭60	筑体二農	支部長、代議員	県立秋田北高等学校 校長
6	山形	鳥羽 聡	平08	筑体	事務局長	県高等学校体育連盟 事務局長
7	福島	伊豆 幸男	昭56	筑一自	支部長	元/県立船引高等学校 校長
8	茨城	高村 祐一	昭61	筑一人文	支部長、代議員	県立水戸第一高等学校・附属中学校 校長
9	栃木	上岡 利夫	昭53	筑一自	元/支部長	宇都宮大学教職センター 特任教授
10	群馬	渡辺 昭彦	平05	筑二比	会員	県立伊勢崎清明高等学校 校長
11	埼玉	春山 賢男	昭55	筑一自	理事	秀明大学客員教授・同教育研究所 教授
12	埼玉	田中 邦典	平04	筑修教	会員	県教育局高校教育指導課 教育指導幹
13	千葉	百瀬 明宏	昭55	筑一人文	支部長、理事	秀明大学 教授
14	千葉	渡部 徹	昭57	筑一人文	茗溪会広報委	秀明大学教育研究所 教授
15	東京	高橋 基之	昭53	筑一自	支部長、理事	都教職員研修センター研修部教育開発課研修研究 支援員
16	東京	笹のぶえ	昭56	筑二比	支部役員、代議員	大妻女子大学教職総合支援センター 特任教授
17	神奈川	大畑 多津雄	昭52	教大数	前/支部長、代議員	神奈川工科大学 教職教育センター 支援室長
18	神奈川	小泉 いづみ	昭51	教大体	理事	三幸学園横浜ビューティー&ブライダル専門学校 校長
19	山梨	小林 智	昭63	筑修教	支部長	県立清州高等学校 校長
20	長野	志津 亨	昭61	筑一自	支部長、代議員	県松本美須ヶ丘高等学校 校長
21	新潟	山下 幸治	平08	筑芸修	事務局長	県立教育センター
22	富山	中村 謙作	昭62	筑一自	支部長	県立砺波高等学校 校長
23	石川	居村 吉記	平01	筑体	会員	県教育委員会保健体育課 課長
24	福井	牧野 保彦	昭63	筑一自	支部長	県立丹生高等学校 校長
25	静岡	望月 保宏	昭61	筑一人文	支部長、代議員	県立沼津工業高等学校 校長
26	愛知	蟹江 吉弘	昭61	筑一人文	事務局長、代議員	県立横須賀高等学校 校長
27	岐阜	鈴木 健	昭59	筑二生	支部長、代議員	県立岐阜北高等学校 校長
28	三重	岡村 芳成	昭62	筑一自	支部長、代議員	県立桑名西高等学校 校長
29	滋賀	藤江 隆史	平08	筑体	事務局長	県教育委員会事務局保健体育課
30	京都	三橋 利彦	昭58	筑体	支部長、代議員	府立東稜高等学校 教諭(再)
31	大阪	戸井田 克巳	昭59	筑二比	支部長	近畿大学 教授
32	兵庫	若浦 直樹	昭60	筑体	支部長	県立社高等学校 校長
33	奈良	井上 徳之	昭58	筑一自	事務局長	県立高田高等学校 教諭(再)
34	和歌山	岡本 規	平05	筑体	庶務	県立海南高等学校大成校舎 教頭
35	鳥取	小倉 建一	昭53	筑体	支部長、代議員	元/県立八頭高等学校 校長
36	島根	塚田 真也	平21	筑博数理	庶務	島根大学教育学部 准教授
37	岡山	中畑 里英	昭61	筑体	会員	県立高梁城南高等学校 校長
38	広島	常國 敬太郎	平15	筑三工シ	会員	広島市立広島中等教育学校 教諭
39	山口	藤本 秀夫	平05	筑修体	事務局長	宇部フロンティア大学付属香川高等学校 教諭
40	徳島	田北 直樹	平05	筑体	会計	県体育学校安全課 主任
41	香川	槌谷 昌晃	昭61	筑一自	支部長、代議員	県立高松西高等学校 校長
42	愛媛	山下 尚位	昭59	筑芸	支部長、代議員	県立宇和南高等学校 校長
43	高知	田頭 克文	昭57	筑体	支部長、代議員	県立大方高校 主幹教諭(再)
44	福岡	稲富 勉	昭61	筑体	支部長、代議員	県立香椎高等学校 校長
45	佐賀	高尾 和範	平01	筑二比	会員	武雄市立武雄北中学校 校長
46	長崎	山口 千樹	昭60	筑二生	支部長、代議員	県立長崎北陽台高等学校 校長
47	熊本	寺本 護	平08	筑体	幹事	県教育庁学校安全・安心推進課 課長補佐
48	大分	田崎 弘宣	昭63	筑体	元/事務局長	県立安心院高等学校 主幹教諭
49	宮崎	松田 太郎	平05	筑芸	会員	県立宮崎商業高等学校 教頭
50	鹿児島	鹿倉 貢	昭57	筑体	前/事務局長	(公財)鹿児島県学校給食会 理事長
51	沖縄	三輪 一義	平02	筑修体	事務局長	琉球大学教育学部 教授

\*所属1の理事は茗溪会の理事。代議員、会員も同様。支部長は各地域組織等(支部)の長。事務局長、庶務、会計、顧問、幹事も同様。

# 追悼のつどい

令和四年十一月五日

於 茗溪会館



穏やかな秋日和であった令和4年11月5日、茗溪会館において「追悼のつどい」が執り行われた。コロナ禍以前は9月開催であったが、コロナの影響は侮れず、令和3年同様、今年度も11月という日程に落ち着いた。茗溪会設立3年目(明治18年)から続く大切な行事であり、先達の存在あつての茗溪会であることを再認識する時間となった。

この一年間にご逝去された会員の方は237名で、今回は15家族21名のご臨席をいただいた。加えて、茗溪会本部から多数の理事・委員も参加し、午前11時、開式となった。参列者一同の黙祷後、井口武雄理事長が「追悼の辞」を述べられた。当日、筑波大学学園祭(雙峰祭)と日程が重なったことから、永田恭介筑波大学学長のご列席は叶わず、「来賓のご挨拶」は真田久理事の代読となった。その後、理事長から参列されたご遺族に対しての挨拶の後、一同の献花となった。前方に飾られた遺影を見上げ、目頭を抑えるご遺族も。厳かな雰囲気の中、追悼式は終了した。

- (一) 我ら歌わん 明日を信じて 桐の葉の萌えいづる庭  
腕を組み 心合わせて歌う時 もえたぎる血潮は叫ぶ  
あ、この血潮 明日ありき 輝ける明日
- (二) 我ら歌わん 友を信じて 新しき光さす丘 手をとりにて  
未来思いて歌う時 湧きいづる平和のねがい  
あ、このねがい 友ありき 永遠の友
- (三) 我ら歌わん 我を信じて かぐわしき夜明けの日本  
たじろがず 声をあわせて 歌う時 地にひびく学生の歌  
あ、この叫び 我ありき 誇りある我

この歌は、「学生歌Ⅱ 我ら歌わん」。

昭和30年、当時農学2年だった木下義啓氏が作詞し、地理3年だった原昭宏氏が作曲した。東京高等師範学校、東京文理大を経て東京教育大となった時、作られたものだ。東京教育大新聞委員会OB会のホームページに、「教育大にも新しい校歌のようなものを作ろう」という気運の中で当新聞会内に設けられた学生歌作成委員会が、1955年3月、学内からの公募によって選考・制定した」という文章がある。歌詞からは、戦後10年、近代的に発展していく日本を背負っていくのだという若人の意気込みが感じられる。実は、作詞をされた木下氏をご逝去され、今

回、ご家族が参列されたのだ。「我ら歌わん」を茗溪会本部職員がバイオリンと歌で披露し、懇談会は、少し和らいだ雰囲気の中で始まった。ご遺族の思い出話の一部をご紹介します。

● 故・木下 義啓(32教大農)

妻 木下 正子様



定年まで、教員一筋の人生徒中心の生活だった。退職後は趣味の油絵を楽しんだ。実はこの会館で結婚式を挙げたので懐かしい。

● 故・角田 迪夫(23臨物象25研)

長女 石原 恵子様



父は、卒業後千葉県で教職に就いた。父が大学で何をしていたのかよくわからなかったが、参加させていただき何となく理解できた気がする。

● 故・藤森 喜雄(35教大地)

妻 藤森 寿美子様

教育大が大好きな人だった。仲間との絆が強く、最近まで良く旅行した。大学ではきつと充実していたのだと思うし、それによって支えられた人生だ

つたのではと思う。



● 故・八木澤 亮(23理二)

次男 八木澤 眞様



父は神奈川茗溪会に参加するのを楽しみにしていた。車いすを押し自分も参加させてもらった。

高齢になつても「先輩」として多くの人と交わるのが楽しかったのだと思う。この夏まで双子の3歳の孫をととても可愛がった。

● 故・小松 喬生(24理一)

長女 富山 美知子様



戦時中で入学期が4月でできなかったと父から聞いていた。家族を戦争で亡くし、食糧難の中、苦勞したようだ。その後、中学の教師から東京学芸大の教授となった。



●故・長谷川 肇志(25理二)

長男 長谷川 彰彦様



父は、S21年高等師範に入学し、教育大の時に卒業。卒業証書の校長名は「教育大高等師範学教育委員長まで務めたが、トイレ掃除なども率先して行う校長だった。」

●故・笹島 勇治郎(30教大教33院修教)

長女 西村 美和子様



北海道の豪雪地域で生涯を過ごした父だった。茗溪会館は受験の時、宿泊したことを思い出す。父が可愛がっていた孫娘も同席しているが、就職が決まった。

●故・三宅 章介(38教大健)

妻 三宅 蘭子様



本日北海道より参列した。北星学園大学で運動生理学を教えていた。体協の仕事も続けていた。

係で、バンクーバーオリンピックの時にカーリングのチームに同行した。

●故・岩崎 義正(31教大健33教大専攻)

妻 岩崎 清子様



都立大で勤務した後、日本女子大で勤務した。生前は研究職でもあり寡黙な人だった。朝家を出て夜遅く帰るとい生活が続いた。定年後は、油絵とテニス、碁を楽しんだ。闘病生活の5年間は今までになく、自宅での時間を夫婦で過ごした。

●故・小林 一敏(27理二)

長男 小林 敏彦様



父は、最初は物理・数学関係で順天堂大で教員となり、その時、体育関係の論文に関わった。その後、筑波大学、中京大学で仕事をされた。筑波大体育学群の名誉教授を勤めた。お酒が好きだった父だったが、10年ほど前からぱったりとやめた。

●故・河本 武(37教大健)

妻 河本 佐智子様

近い身内が2人、教育大で、本人も教育大を愛していた。ユーハイムに入



社してからは、会社のために力を尽くしてくれた。茗溪会創基150年の仕事に関わり喜んでいた。私の誕生日が命日でなんとも複雑だが、毎年皆が集まりやすい日ではある。

●故・阿部 生雄(43教大47院修教)

妻 阿部 いと子様



筑波大附属中学校の校長を勤めた。校長講話をまとめた「みなさん こんにちは」という本を出版。体育史の研究者だったが、家ではユーモアのある人で孫を楽しませていた。年賀状は毎年自筆の絵。志半ばで無念。

●故・祐本 寿男(20文三27大英)

長女 渡部 久子様



学ぶ事が好きで父だったと思う。沖縄以外の日本全国の都道府県に連れて行ってもらった。学生時代に学徒出陣の経験をした。小金井の自宅から、茗荷谷の歯医者に通

●故・安部 一郎(19体二)

長女 田中 博子様



この2月に99歳で亡くなった。健康のために歩かないといけないとずっと散歩を心掛けていた。入院してからはリモートでしか会えなかった。柔道の師範としてフランス、ベルギーを回った。私の教育のために日本に帰国し、講道館で仕事をし、柔道十段の資格を取った。

限られた時間ではあったが、ご遺族の皆様から貴重なお話を伺うことができ、ご逝去された先輩方のお人柄をしのぶことができたと時であった。ご逝去された皆様のご冥福をお祈りいたします。

(茗溪会理事 小泉いづみ)



## 宇宙からの天体観測を支える技術

村上 正秀

天文観測の典型的イメージは、空に向けた望遠鏡で光（可視光）の像を覗くと言うことでしょうか。しかし最新の天体観測は大きく違って来ている。可視光は電波等と共に電磁波の一種だが、今や観測対象電磁波は赤外線、紫外線、X線、ガンマ線とより広い波長領域に拡がっている。だがその観測は各波長に特化した検知器が開発できれば可能、とは言えない。実は可視光以外の大抵の電磁波は地球の大気で吸収されてしまい地球上には届かない。一方、物質はその温度に応じた電磁波を放射しており、常温の物質からは赤外線強度のピークとする放射がある。それ故大気も赤外線を放射しており、天体観測において強大な雑音源となる。事情は、昼間は周りが明るくて星が見えないのと同様だ。大気層を透過する際の天体シグナルの揺らぎも高性能観測では問題となる。これらに対処する解が大気から自由な宇宙からの天体観測だ。実は、宇宙からの天体観測には更なる利点もある。常温の望遠鏡自体からの強力な赤外線放射は、天体からの極微弱な赤外線シグナルを凌駕する。その抑制には望遠鏡の絶対零度近くまでの冷却を要する。幸い、宇宙では冷却された望遠鏡への大気や水蒸気の着霜の心配は無い。とは言え、宇宙から

の天体観測の実現には多大の課題が指摘されていた。本講座では赤外線観測を中心に技術的課題克服を述べる。

実は1970年代から、大気の影響が弱まる高高度からの天体観測が航空機（カイパー空中天文台：高度10km）、や気球（高度50km）を利用して行われた。しかし高度や観測時間は依然足りなかった。この状況を革命的に改善するコンセプトが超流動液体ヘリウムを冷媒として絶対零度（ $0^{\circ}\text{C}$ ）程度まで冷やした望遠鏡の人工衛星への搭載だ。ただ、宇宙の無重力状態における超流動液体ヘリウムの長期タンク内貯蔵、という未経験の課題があった。最も困難なのは、超流動液体ヘリウムの無重力状態での気・液分離であった。重力が働けば、タンク内の液体と蒸気は上下2相に分離し、タンク内で蒸発した蒸気の排気は、その上方位置から行えば良い。しかし無重力状態では、液体はタンク内壁一面にへばり着くか、何らかの加速度がかかった際にはタンク内をふわふわ浮遊するので、蒸気排気を行えば必ず液体も一緒に排出されてしまい、液体冷媒は短時間のうちに失われる。そこで開発されたのが、ポラスプラグと名付けられた気・液分離器であり、これにより無重力下でも蒸気のみを弁別的排気が可能となる。その作動原理は、超流動性を巧妙に応用している。他にも超流動ヘリウムを蓄えるクライオスタット（低温容器）内部タンクへの外部から構造部材を伝わる熱伝導による熱侵入の低減の為、支持構造外殻とタンクの間を低熱伝導性の強化プラスチック索で引張りによって支持する構造の採用、等があった。

こうした課題に一応の解決の目処が立ち、米・蘭・英共同開発による初の赤外線宇宙衛星 I R A S (Infrared Astronomical Satellite) が1983年に打ち上げられた。口径60cmの望遠鏡で、地球上では観測できない100 $\mu\text{m}$ までの波長の赤外線に対して一定範囲の空を隈無く観測する掃天観測（サーベイ）が行われた。1.6Kの超流動液体ヘリウム720 $\ell$ を搭載し、その枯渇まで約11ヶ月間の観測が行われた。冷媒を長持ちさせるには、太陽からの熱放射入力を避ける衛星軌道にも注目する。そのため軌道面が太陽の方向とほぼ直交する地球の昼と夜の境目上空を飛ぶような軌道が選ばれた。望遠鏡は常に地球にお尻を向け、太陽光は真横からしか入射せず望遠鏡内への直接入射が無いように姿勢制御された。この様な衛星軌道は、理想的には半年で全天を掃天観測できる点からも選ばれた。成果である全天の赤外線点源のカタログは天文研究の基礎資料として利用されている。次いで、ビッグバンの名残の背景放射の観測に特化した宇宙背景放射探査機 COBE (Cosmic Background Explorer) がNASAによって1989年に打ち上げられた。宇宙背景放射とは、138億年前の宇宙開闢（ビッグバンの爆発的膨張後（およそ40万年）の火の玉が、現在まで続く宇宙の膨張によるドップラーシフトで波長が延び（宇宙赤方偏移）、現在3Kにまで冷えた赤外線放射として観測されるもので、ビッグバン理論についての最たる証拠と言われる。その成功により、ジョン・C・マザー等は2006年のノーベル物理学賞を受賞した。

その後も、わが国初の赤外線宇宙望遠鏡 I R T S (Infrared Telescope in Space) が1995年に、欧州宇宙機関 ESA による赤外線宇宙天文台 ISO (Infrared Space Observatory) (1995-98年)、NASA による SPI T Z E R 宇宙望遠鏡（天文台型）(2003-09年、85cm)も打ち上げられた。I R T S は小型で観測期間も短かったが、ヘリウム同位体 $^3\text{He}$ を用いた冷凍機により0.3Kという宇宙では前例のない極低温まで検出器を冷却することに成功した。

日本の本格的赤外線天文衛星「あかり」<sup>①</sup>は2006年に打ち上げられた。これはサーベイ型の望遠鏡衛星で、主鏡口径は69cm、観測波長は2-180 $\mu\text{m}$ であった。成果の第1はI R A S を凌駕する新しい高感度・解像度赤外線天体カタログの作成、第2には、ISOでは感度不十分であった小惑星の分光観測を行う（その後のハヤブサ2への基礎データの提供）、第3は、限られた量の液体ヘリウムで長期冷却を可能とするため、機械式冷却機（スターリング冷却機）が初めて搭載され、僅か170 $\ell$ の超流動ヘリウムで500日の冷却寿命を達成でき、さらにその枯渇後も、冷却機単独で冷却を行い、近赤外領域での観測を可能とする50K程度の低温を維持し、2011年までの6年という長寿命を達成した。その後も、「あかり」の大成を受け継ぎ、野心的な次世代赤外線天文衛星 SPICA (Space Infrared Telescope for Cosmology and Astrophysics) の開発に入ったが、膨らみすぎた予算や技術的問題で残念ながら2020年に中止が決まった。



最近話題のジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡(JWST)<sup>[3]</sup>(**図1**)は、ハッブル宇宙望遠鏡(HST)の後継機を指してNASA、ESA、CSA(カナダ宇宙庁)で開発され、ビッグバンの約2億年後以降に輝き始めたと言われるファーストスター、この光は宇宙赤方偏移により波長が赤外線に変化、の初観測や、太陽系外惑星の観測を目指している。当初(2003年時点)は、予算16億ドルで2011年打ち上げとされていた。2011年には歯止めのかからぬ出費増に対する批判が米国下院やネイチャー誌上で展開され中止が勧告されたりしたが、アメリカ天文学会の支持が得られ80億ドルを上限として計画の続行が決まった。最終的には2021年12月25日に打ち上げられた。望遠鏡の主鏡は6.5mと極めて大きく、ロケットに収納できないので18枚の六角形セグメントに分割して打ち上げられ、宇宙でこれを展開し高精度のマイクローターと波面センサーによって正確な鏡面に整形された。鏡の面積が故に、HSTを遙かに凌ぐ観測性能が期待されている。軌道は地球から月公転軌道の約4倍外側となる150万km離れた地球-太陽系ラグランジュ(L<sub>2</sub>)点周りのハロー軌道を採用する。L<sub>2</sub>点においては、望遠鏡は地球から見て太陽と反対側(夜側)にあり、太陽は地球には遮られてコロナが見えるだけとなり、太陽からの放射熱入力が大幅に低減される。設計寿命は5年とされるが、ハロー軌道上に留まる為の噴射ガスの残量から寿命は10年と見積もられている。望遠鏡全体としての冷却(約50K)はラディエーターによるが、その有効性は、

地球の陰に入っただけでは完全に無視出来ない太陽熱放射をどこまで遮断できるかにかかっており、これは望遠鏡の地球側の面に設置された5層のフィルム(50μm厚)で構成されるサンシールドに依る。これは巨大なハイテク折り紙とも称され、2つのパーツに分かれて梱包され、宇宙で順次展開されて長さ20mのテニスコート大の大きさになる。このような宇宙での大規模展開は、エンジニアリングにおける大きな挑戦でもあった。検知器部は、近赤外線カメラ、近赤外線分光器、中間赤外線観測装置から成り、0.6〜28μmの波長領域をカバーする。最も低い温度を要する中間赤外線観測装置はさらに冷却機によって冷やされるが、温度が7K程度なので、遠赤外線での観測には適さない。極低温冷却に液体ヘリウムを使用しない赤外線宇宙望遠鏡は史上初である。打ち上げ後、サンシールドや主鏡の展開、鏡と副鏡の調整が行われ、約30日かけてL<sub>2</sub>点を周回するハロー軌道に到達した。すでに、宇宙から美しい画像を送り始め公表もされているが、これには長時間露光で捉えた130億年以上前(宇宙開闢後3億年)の銀河の像も含まれる。

X線天体観測衛星である日本の科学衛星「ひとみ」も極低温冷却を必要とする。数千万度の超高温物質からは極めて強いX線が放射される。観測される宇宙物質の80パーセントはその様な高温状態にあるので、宇宙の構造と進化、その全貌を知る上で、X線観測は不可欠の手段である。「ひとみ」の観測装置の内、軟X線分光検出器が液体ヘリウムと機械式冷却器により0.6Kにま

で冷却された検知器を使って超高分解能分光を行う。だが、2016年の打ち上げ間もなく通信が途絶え運用が断念された。これを更なる高性能(30倍以上の分光性能)で後継すべく、X線分光撮像衛星XRISM(クリズム)が2023年度以降の打ち上げを目指して開発されている。

(筑波大学システム情報系名誉教授)

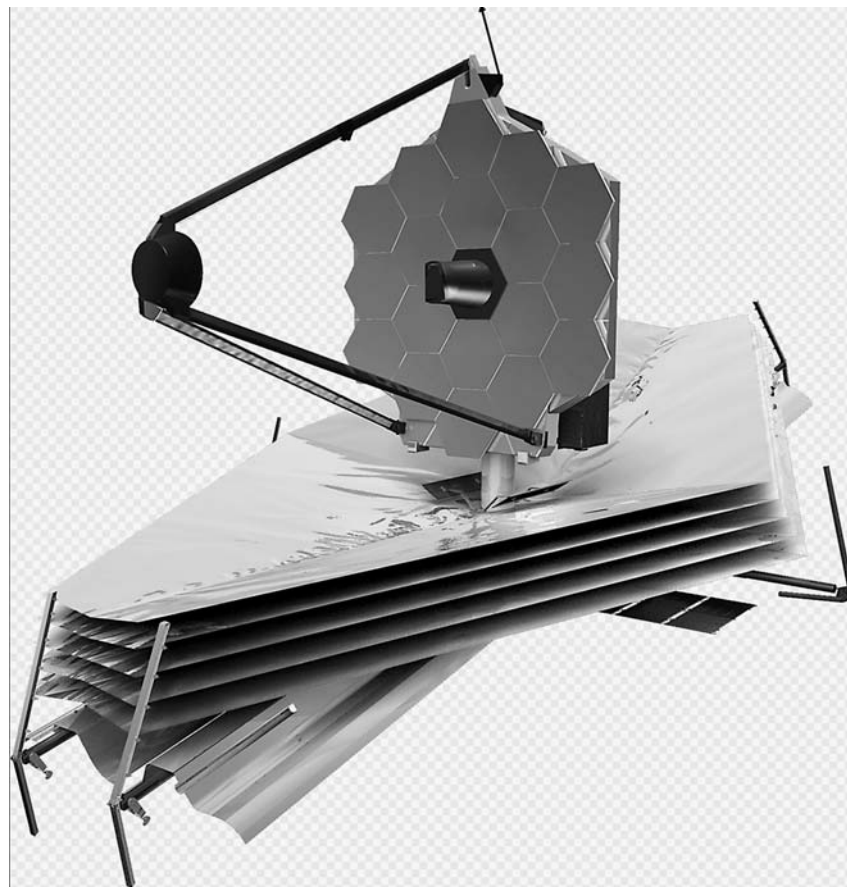


図1: JWST全景。望遠鏡は鏡筒を持たず主鏡と副鏡がむき出しになっている。その下に展開された5層のサンシールドが見える。(出典/NASA)

- 《参考》
- [1] 村上正秀: Space Cryogenics 2018 低温工学 Vol.53 No.6 pp.335-342.
  - [2] 松浦周二、中川貴雄: 赤外線天文学の最前線 2010 パリティ Vol.25 No.5.
  - [3] 渡部潤一「監」: 宇宙のすべて 2022 Newton Vol.42 No.12 pp.59-87.

# 医薬・関連業会交流会の活動本格化！

## 10月に第2回開催。次回テーマは創薬秘話

毎日新聞 記者 荒木涼子 (09年自然科学類卒)



次回 2023年2月11日(土) 15:00~

茗溪秋号でも初回開催をお知らせさせていただきました。医薬関係の同窓会有志による交流会の第2回目が昨年10月30日、茗溪会事務局のある大塚事務所（東京都文京区）にて開催されました。前回は「まだ会の正式名は決まっています」と書きましたが、今回は「医薬・関連業界交流会（仮称）」として紹介させていただきます。

メンバーは、前回の記事を読んで下さった方などが駆けつけてくれ、さらに増えました。この日は、徳島や長野などからのオンライン参加も含め、同窓生13人に事務局から4人が加わり、近況や製薬にまつわる問題意識などを意見交換。大学時代の自己紹介や思い出も含めると、1人5分では全く時間が足りないほどで、フリーディスカッション含め2時間があったという間に過ぎてしまいました。

主な話題は▽大学時代に打ち込んだことやこれまでの経歴など簡単な自己紹介▽交流会に参加した動機、▽交流会に期待すること、▽交流会で活動してみたいこと、▽こういう話が聞きたい——などです。

参加メンバーの出身学類は「社会」や「人間」などから「農林」「生物」はもちろん、「社会工学」など一見製薬とはあまり縁がなさそうな学類まで、それぞれ総合大学ならではの多様さ。現職やこれまでの経歴も、製薬メーカー、医療機器メーカーのほか、医薬品卸、医療機関、国の規制機関や研究機関、そして法律事務所、創業ベンチャー、医療刑務所の医療技官、報道など、バラエティーに富んでいます。

### ◇「薬学部がない」からこそ

都心から少し離れた（ちなみに私が入学した05年夏につくばエクスプレスが開業し、格段に都心とのアクセスが良くなりましたが、それまではさらに遠かった）と先輩方から伝え聞いています）つくばの地には、読者の皆さんの在学当時もさまざまな出身地の同級生、先輩・後輩と教室やサークル、部活動で肩を並べていたのではないのでしょうか。もちろん、集まった13人の出身地も北海道から九州地方までさまざまでした。

こういった、出身地、学類、卒業後の進路の紹介だけでも、いわゆる「薬学部」がない母校ながら、「医薬」というキーワードだけでいろんな関わり方、さまざまな広がりがあることを、おわかりいただけるかと思えます。「母校が同じ」だけでキーワードを元につながりが持てる、この活動をさらに発展させて行ければと思います。それこそ、「薬学部がない」からこそ、今後は新しい活動ができるかもしれません。

「参加動機」や「この会に期待すること」で多く寄せられたのが、「ビジネスは、結局は人とのつながり。交流の輪を広げたい」（生物資源学類03年卒）、「ネットワークを広げると共に若い人たちに経験も伝えたい」（農林学類及び修士課程85年卒）など、まずは交流の輪を広げることです。この他、「多様性に富んだ大学だからこそ、新しい取り組みを何かしたい。総力を挙げて創出できる事業はないか」（修士理工学課程91年卒）、「福祉や医療でアイデ





アを出し合い、良い活動が出来れば」(社会学類86年卒)などと、交流会の活動を通じて自身の社会貢献のヒントを模索するような声もありました。

時事的な個別テーマでは、国内外のワクチン開発や創薬事業、創薬ベンチャー支援などの問題意識についても意見が出ました。

### ◇今後のキャリア形成にも

第1回交流会では前回記事でもお伝えしたように「薬剤耐性菌」をテーマに、普段、現職でこの課題に取り組んでいらっしゃる、83年生物学類卒の高橋義三郎さん(現Meiji Seikaファルマワクチン企画推進部/経営企画部)や高橋さんと同期で83年農林学類卒の藤江昭

彦さん(現国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)にお話をいただきました。

次回第3回では、創薬研究の体験談を、85年修士課程環境科学卒の荒川健司さん(現田辺三菱製薬)にご紹介いただく予定です。ご存じのように創薬は膨大な研究と時間をかけても、そう簡単には成功に結びつかない難しい事業です。そんな中、2型糖尿病をターゲットに、SGLT2阻害薬の開発に成功した秘話、経験を伺います。より「選択と集中」で基礎研究環境が厳しくなる昨今、少しでも打開に向けてヒントが得られればと思います。

そして第4回以降でも、創薬研究の最新の取り組みの紹介や研究開発を取り巻く課題について議論し、適宜、参加者か



### ◇改めて参加者募集中です

ら議論したいテーマも受け付ける予定です。この他、プラットフォーム的な要素ではありますが、転職や人材についての情報交換も念頭に置いた活動をしていきます。実際、第1回の参加者より「交流会の後、自分の価値観など見直す結果になった。今後のキャリア形成に向け、具体的な一歩が踏み出せた」という声も聞きました。

前回と同様の締めくくりになり恐縮ですが、やはり日々メディアで取材をしていると、「人と人とのつながり、出会い」が何より大事と痛感します。コロナ禍を経て、リアルで人に会い、目を合わせ、同



じ時間を過ごすことの大切さが身にしみました。あらゆる社会課題に向けても、結局は一人一人の声を聞いて行くことが、最善の近道だと思っています。この交流の場が、少しでも同じくば時間を過ごした人々にとって、そして社会にとって、実りある場に成長することを願っているので、ぜひ皆さんの力をお貸し下さい。

## 交流の輪を広げませんか？

- 他大学では薬学部同窓会等で情報交換をしていると聞き及びます。筑波大学には薬学部はありませんが、医薬品及び関連業界関係の方々が多くいらっしゃるようです。母校に薬学部が無いということは逆に広く大きな輪になる可能性もあります。交流の輪を広げませんか？  
交流の輪に加われる方、関心のある方は、下記連絡先にご一報下さい。

茗溪会事務局 (大塚事務所)  
☎ 03-3941-0136  
E-mail : peer@meikei.or.jp



出陣学徒壮行会 1943年10月21日(木)  
 明治神宮外苑競技場は、理工系学生、中等学校生、女学校生など計96校、約5万人が動員され観客席を埋めた。日本放送協会はその様子を2時間半にわたり中継した。壮行会の挙行は、出陣学徒による答辞の一節「生等もとより生還を期せず」という言辭とともに、日本国民全体に総力戦への覚悟を迫る象徴的出来事となった。

# Peer Garden

## 茗溪アルバム 茗溪創基150年記念事業

茗溪150年の思い出を紡ぎませんか？

### 土方多美枝(旧姓梶ヶ谷)のこと

健康学科初めての女子学生

#### ●秋雨の学徒出陣

昭和18年10月21日、降りしきる秋雨の中、出陣学徒は学校ごとに大隊を編成し、大隊名を記した小旗の付いた学校旗を掲げ、学生帽・学生服に巻脚絆をした姿で小銃を担い列した。東京・神奈川・千葉・埼玉から77校の出陣学徒の入場行進、宮城遥拝、「海行かば」の斉唱、などが行われ、最後に競技場から宮城まで行進して終了した。

おはぎを入れた重箱を抱えて多美枝は、行進する兄の姿を追った。父と共に磯子から汽車を乗継いできた。

壮行会を終えた学生は徴兵検査を受け、各校在籍のまま休学とされ、暮れに陸軍へ入隊、あるいは海軍へ入団した。兄は、フィリピンレイテ沖で戦死した。

七歳年上の姉が神奈川高女(現神奈川学園)の体育教師をしていた。学徒出陣の年、多美枝は附属の精華小学校から神奈川高女に入学した。

横浜市青葉区と町田市三輪町に跨って「こどもの国」がある。この地に旧陸軍の弾薬庫があった。昭和13年に国家総動員法によりこの地が接収され、昭和16年から旧陸軍弾薬庫として使用された。

多美枝が兄を学徒出陣で送り出した翌年の昭和19年、横浜二中(現横浜翠嵐高校)の男子学生250人と神奈川高女

の女子学生200人が薬莖に火薬を詰める填薬作業に動員された。

こどもの国の正面入口から入って右側、道路の向かいに「白百合の丘」と呼ばれている高台がある。そこに「平和を祈る」と書かれた碑が建っている。碑の裏に「戦争のない世界を願って」と題した建立の由来が書かれている。神奈川高女の生徒達が建てた碑である。

昭和20年5月29日(火)の9時過ぎから一時間程、517機のB29が大量の焼夷弾を投下した。横浜大空襲である。

多美枝は上履きのまま防空壕に避難したが、火の手が激しくなり、裏山に逃げた。目の前で校舎が焼け落ちた。

4日前の夜半に東京大空襲があった。東京文理大・東京高師の大塚校舎、そして桐花寮が焼け落ち、東京の大半が大空襲から4年が経った。

#### ●東京教育大学に入学する

昭和24年、国立大学設置法の公布により、母校は、東京文理科大学、東京



平和の碑と碑の裏に刻まれた文面

こどもの国は第二次世界大戦中「東京陸軍兵器補給廠 田奈部隊」と呼ばれ、園内の森には高射砲や手りゅう弾などの砲弾を作る工場とたくさんの弾薬庫がありました。

戦争がはげしくなった1944年から45年にかけて、神奈川高等女学校の学生だった私たちは、国の命令で勉強をやめ、ここで砲弾を作る作業につきました。その砲弾が地球上のだれかを傷つけたのではないかと思うと、とても恐ろしい気持ちです。戦争を再び起こしてはならない、この思いを込めて、女学生休憩所のあった丘に平和の碑を建てました。平和な世界の中でこどもたちがのびのびと育ちますように

高等師範学校、東京体育専門学校、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、東京農学部、理学部、教育学部、体育学部、農学部を持つ総合大学として発足した。東京教育大学(以後「東教大」と略す)である。

翌昭和25年、体育学部健康学科の入学生の中に、多美枝の姿があった。体育学部一期生には、女子学生(相場了、水戸宣子)はいたが、体育学部である。健康学科では初めての女子学生であった。

多美枝は江田前理事長と同期で二期



空襲で破壊された大塚構内  
 門柱の板門標を前にした高師生の後ろに  
 焼け残ったW館(西館)が見える。



生である。若体会二期会の会合に、よく参加していたと、江田前理事長は回顧されていた。

新入生の多美枝がいる。

その頃、東教大は戦災校復興のモデル・スクールに指定され、E館着工から本格的な校舎再建の途につき、事務棟や本館が竣工したのは昭和34年のことである。

戦後5年、磯子から横浜、そして東京へと乗継ぎ、都電(丸ノ内線はお茶の水停まりだった)で大塚三丁目に辿り着く。工事現場のような東教大の正門に入り、無数の視線を気にしながら講義棟に向かう。勇気のいることと想像できる。

三年になって、体育学部には2人の女子学生が編入して、3人となった。体育学科に編入した米陀京子は、中京体専(現至学館大学)在学中、日本選手権大会、日本学生対抗選手権大会に出場し、80mハードルでは歴代優勝者に記録されている。

多美枝も高女時代は陸上競技の選手であった。卒業の年、山形県営競技場で開催された第32回全日本陸上競技大会に出場している。東京教育大学入学の前年である。投てき、槍投げ、高跳びなどに出場した。天性の運動神経の持ち主といえるが、小柄であった。身長を尋ねると、151cmということである。大学では陸上競技はやらず、硬式テニスやバレーボールなどを転々とし、3年になって、他学部の女子学生を誘

って、5人を揃えた。女子バスケット部を創った。

小柄な多美枝は、男子学生とともに体育の授業を受けるのだが、「サッカーの実技はいつもキーパーだった」と笑った。

土方多美枝さんにお会いしたのは、数年前の神奈川茗溪会の懇親会であった。中華テーブルが一緒だった。参加者の中でも高齢であったから、来賓扱いであったのかもしれない。穏やかな笑顔をお持ちの方という印象であった。お話を伺いたいと願ったが、新型コロナウイルス禍に邪魔をされて儘ならなかった。

土方さんには、素敵な後輩達がいた。佐々木悦子さん(S46教大体)と小泉いづみさん(S51教大体)である。お二人とも女子バスケットの後輩であった。昨年、7月23日、3年振りの神奈川



10月10日正午、磯子駅近くのサイゼリア。土方さんのお住いの近くということで、佐々木悦子さんが随分気を遣って手配してくれた。向かい側に佐々木悦子さん、右隣に小泉いづみさんが土方さんを挟むように着席した。前日までの雨が上がり、上天気であった。

茗溪会の総会があった。その席上で、土方さんに近々お話を伺いたい旨をお伝えし、佐々木悦子さんが日取りと場所を手配してくれた。10月10日(月)、磯子でお会いすることができた。佐々木、小泉二両名も同席した。

多美枝が山形大会に出場した年の正月に、土方久平は第25回東京箱根間往復大学駅伝競走で第3区を疾走した。その2年前の、昭和22年正月にも、土方は第3区を駆けていた。写真がある。



1月4日、戸塚中継所で3区の土方に襷を渡す山本邦夫。その背中に文理大の文字が見える。後方に制帽姿の学生がいて当時の様子がうかがえる。土方はその後、第26回の箱根駅伝にも出場している。慶應大学の選手として9区を走った。

土方は母校卒業後、慶応大学体育研究所の助手を経て、東海銀行に入行する。

多美枝は昭和29年に卒業した。同年、戸倉ハル(1896-1968)が日本女子体育連盟を発足させ、創作ダンスを中心に活動を開始した。戸倉の愛弟

子であった松本千代栄(1920-2022)は、昭和27年、東教大の専任講師として舞踊学講座を開講していた。

体育学部教授の竹之下休蔵(1909-1988)の薦めによる。松本の講座を受講した多美枝は、卒業と同時に、東教大附属中等・高等学校に奉職した。

5クラス(4クラスが男女混合、1クラスが男子クラス)であった。体育教諭で創作ダンスを担当した。二日程して、多美枝は土方と結婚し、夫の転勤先の名古屋に転居した。



佐々木悦子さんはメモをとり、小泉いづみさんはスマホで検索を繰り返していた。土方多美枝さんのお話に参加する人物や出来事を調べるためであった。初めてお聞きする話が多かった。

多美枝が夫の転勤で磯子に戻ってきたのは昭和39年、東京五輪の年である。昭和43年、松本が日本女子体育連盟の会長に就任した。戸倉の後任である。磯子の会合より一週間ほど前の東京新聞ウェブ欄(10/4)に計報が載った。松本千代栄さん(お茶の水女子大名誉教授、舞踊教育学)9月15日、老衰のため死去、102歳。奈良県出身。

松本が東京女高師研究科の繰り上げ卒業のため上京した時の回想である。

何を目的に教師になっていったのか分らないから、靴磨きでもしようかなと思って、神田のガード下に見に行ったんです。そうしたら、大勢の人が座って、アメリカ兵の靴を磨いているのです。

その情景を目の当たりにして靴磨きもできないと落ち込む松本に、奈良女高師附属小学校の武田一郎主事(校長)から手紙が届いた。

「国敗れて教育の目的を見失っているのは松本さんだけではない。日本全国の教師がそうだ。でも、教師が教育の目的を見出すまで、子どもは大きくなるのを待つてはくれない。悩みながらもやらなければいけないのだから：帰って来なさい。僕たちと一緒にやろう」(『舞踊学』第38号、70頁)

松本は奈良に戻り、附属小学校で再び教鞭を取り始める。終戦の翌年であった。

### ●東京教育大学学則第一条

学則第一条は、「第一章 総則 第一節 大学の目的及び使命」の部分である。

「本学は、学術に関する高度の専門的研究教授と教育科学の深い研究教授とを行い、併せて高い識見と広い視野を持つ有能な教育者たるべき人材を育成する。」

昭和24年に開催された茗溪会総会は、

前年の参加者54名を遥かに凌ぐ盛況ぶり、学長をはじめ200余名が参加した。

学長の調停案提示によって、校名をめぐめる混乱がようやく収拾の兆しを見せた頃である。すでに、春の衆議院で、国立学校設置法案は「東京教育大学」の校名をもって可決成立(5/18)していた。

茗溪会にとって、「教育大学(師範大学)への希求は、1919年の母校昇格運動に始まり、1929年の「東京文理科大学」設立を経て、1949年に「東京教育大学」、いわば30年越しの希求であり、ようやく大願成就したといえる。

しかし、東教大が発足し、初代学長には文部省社会教育局長柴沼直が任命されたが、文理大教官不参加のため学部長、専任教官も決まらないままの不幸な出帆となった。

その後、体専、農教の文理大側への歩み寄りや、学則第一条を文理大寄りへ改定する調停案を提示するなど、柴沼学長の努力も繰り返された。

「校名をめぐめる混乱」は、昭和20年から昭和24年までの5年に及ぶ。それは、新制大学の目的・性格(学則第一条)を背景にした混乱ともいえた。

多美枝は、「校名をめぐめる混乱」が収束した翌年に入学し、昭和29年に卒業した。

翌年の春、丸ノ内線(お茶の水一池袋間)が開通している。

### 篠田昭八郎のこと

土方多美枝さんとすれ違うように、篠田昭八郎氏(S31教大健)が東教大に入学している。昨年(昭和29年)の3月、「自宅の古い資料を片付けて」いた際にネガとともに出てきた写真が篠田氏から送られていた。

篠田氏は蹴球部で活躍していた。一部リーグではあったが、40人程度の規模だった。昭和39年のメキシコ五輪で日本チームが銅メダルを獲得したことから注目されるようになり、入部者も徐々に増えて百人規模になったようである。



昭和29年春季合宿は三重県磯部高校グラウンド。翌年の夏季合宿は松本総合グラウンドなど、合宿は全国を遠征した。遠征先は部長とマネージャーで決めていた。期間は夏が10日間、春は1週間。期間中は禁酒禁煙であったが、当時、兵役帰りや一旦社会に出ていた者もいたから、禁煙をめぐっては、騒動もあったらしい。

篠田氏は、岐阜高専で教師の傍ら監督を務めた。昨年、日本サッカー協会は百周年を迎えたが、協会から功労表彰を受けている。85周年に続く受賞であった。



昭和29年夏、千葉館山での水泳実習の写真がある。体育学部は、水泳とスキー実習が必修で、上級生もいたようである。

江田前理事長がこの写真をみて「僕もいたと思う」とおっしゃった。ただし、結核療養明けで見学者だった。「見学だけで単位がもらえたのは、僕だけかもしれない」と笑っておられた。





篠田氏は杉本教授の運動生理学研究室に所属していた。写真は昭和30年暮れの忘年会である。

杉本教授（中央眼鏡の人）と共に写っている阿久津助手（左隣）は東教大一期生であった。篠田氏は後列左から3人目。中央の女性は西谷明子さんで、一学年下である。平成15年まで、中央大学保健体育研究所の所長だった。

西谷さんの学年には、体育学部女子学生が9名いた。千葉館山の水泳実習風景にも10人ほど女子の姿ある。篠田氏の学年には、体育学科と健康学科が各々3名の女子学生がいた。梶ヶ谷多美枝さんの入学から、5年程後のことである。

### 学生便覧の頃

机に封筒が置かれていた。神奈川県藤沢市の住所である。



市川弘氏（S34教大芸）からのもので、学生便覧と徽章が同封されていた。

昭和30年、この年、保守・革新がそれぞれ、自由民主党と日本社会党として大同団結し、55年体制が確立した。第一回春闘とともに神武景気が始まり、一円硬貨や五〇円硬貨が発行された。電気釜やトランジスタラジオ：家電時代の到来を予感させる製品も誕生した。

市川氏は開通したばかりの丸の内線茗荷谷駅を通学に利用できた。



戦後10年の春、手交された学校便覧は、手帳サイズで厚みはあるものの、紙質は悪く手にとると軽く感じた。

学生便覧の目次は、「一沿革及び位置」に始まり、学則、履修方法と続き、「十三教育職員免許状取得について」で終わる。

目次の裏に「昭和三十年度行事予定」がある。授業は前期(4/14~10/9)と後期(10/17~2/22)の二期制で、夏季・冬季休業(7/1~9/3、12/19~1/7)、それに年度末休業(2/23~4/13)を併せると100日以上の休業である。時程は、8時30分に始まり16時40分に終わる。一時限50分の8時限授業となっている。

昭和三十年度行事予定(学生便覧)

行	期日又は期間	備考
入学式	四月一日(日)	
入学式(別校)	四月二日(月)	
入学式(別校)	四月三日(火)	
入学式(別校)	四月四日(水)	
入学式(別校)	四月五日(木)	
入学式(別校)	四月六日(金)	
入学式(別校)	四月七日(土)	
入学式(別校)	四月八日(日)	
入学式(別校)	四月九日(月)	
入学式(別校)	四月十日(火)	
入学式(別校)	四月十一日(水)	
入学式(別校)	四月十二日(木)	
入学式(別校)	四月十三日(金)	
入学式(別校)	四月十四日(土)	
入学式(別校)	四月十五日(日)	
入学式(別校)	四月十六日(月)	
入学式(別校)	四月十七日(火)	
入学式(別校)	四月十八日(水)	
入学式(別校)	四月十九日(木)	
入学式(別校)	四月二十日(金)	
入学式(別校)	四月二十一日(土)	
入学式(別校)	四月二十二日(日)	
入学式(別校)	四月二十三日(月)	
入学式(別校)	四月二十四日(火)	
入学式(別校)	四月二十五日(水)	
入学式(別校)	四月二十六日(木)	
入学式(別校)	四月二十七日(金)	
入学式(別校)	四月二十八日(土)	
入学式(別校)	四月二十九日(日)	
入学式(別校)	四月三十日(月)	
入学式(別校)	五月一日(火)	
入学式(別校)	五月二日(水)	
入学式(別校)	五月三日(木)	
入学式(別校)	五月四日(金)	
入学式(別校)	五月五日(土)	
入学式(別校)	五月六日(日)	
入学式(別校)	五月七日(月)	
入学式(別校)	五月八日(火)	
入学式(別校)	五月九日(水)	
入学式(別校)	五月十日(木)	
入学式(別校)	五月十一日(金)	
入学式(別校)	五月十二日(土)	
入学式(別校)	五月十三日(日)	
入学式(別校)	五月十四日(月)	
入学式(別校)	五月十五日(火)	
入学式(別校)	五月十六日(水)	
入学式(別校)	五月十七日(木)	
入学式(別校)	五月十八日(金)	
入学式(別校)	五月十九日(土)	
入学式(別校)	五月二十日(日)	
入学式(別校)	五月二十一日(月)	
入学式(別校)	五月二十二日(火)	
入学式(別校)	五月二十三日(水)	
入学式(別校)	五月二十四日(木)	
入学式(別校)	五月二十五日(金)	
入学式(別校)	五月二十六日(土)	
入学式(別校)	五月二十七日(日)	
入学式(別校)	五月二十八日(月)	
入学式(別校)	五月二十九日(火)	
入学式(別校)	五月三十日(水)	
入学式(別校)	五月三十一日(木)	
入学式(別校)	六月一日(金)	
入学式(別校)	六月二日(土)	
入学式(別校)	六月三日(日)	
入学式(別校)	六月四日(月)	
入学式(別校)	六月五日(火)	
入学式(別校)	六月六日(水)	
入学式(別校)	六月七日(木)	
入学式(別校)	六月八日(金)	
入学式(別校)	六月九日(土)	
入学式(別校)	六月十日(日)	
入学式(別校)	六月十一日(月)	
入学式(別校)	六月十二日(火)	
入学式(別校)	六月十三日(水)	
入学式(別校)	六月十四日(木)	
入学式(別校)	六月十五日(金)	
入学式(別校)	六月十六日(土)	
入学式(別校)	六月十七日(日)	
入学式(別校)	六月十八日(月)	
入学式(別校)	六月十九日(火)	
入学式(別校)	六月二十日(水)	
入学式(別校)	六月二十一日(木)	
入学式(別校)	六月二十二日(金)	
入学式(別校)	六月二十三日(土)	
入学式(別校)	六月二十四日(日)	
入学式(別校)	六月二十五日(月)	
入学式(別校)	六月二十六日(火)	
入学式(別校)	六月二十七日(水)	
入学式(別校)	六月二十八日(木)	
入学式(別校)	六月二十九日(金)	
入学式(別校)	六月三十日(土)	
入学式(別校)	六月三十一日(日)	
入学式(別校)	七月一日(月)	
入学式(別校)	七月二日(火)	
入学式(別校)	七月三日(水)	
入学式(別校)	七月四日(木)	
入学式(別校)	七月五日(金)	
入学式(別校)	七月六日(土)	
入学式(別校)	七月七日(日)	
入学式(別校)	七月八日(月)	
入学式(別校)	七月九日(火)	
入学式(別校)	七月十日(水)	
入学式(別校)	七月十一日(木)	
入学式(別校)	七月十二日(金)	
入学式(別校)	七月十三日(土)	
入学式(別校)	七月十四日(日)	
入学式(別校)	七月十五日(月)	
入学式(別校)	七月十六日(火)	
入学式(別校)	七月十七日(水)	
入学式(別校)	七月十八日(木)	
入学式(別校)	七月十九日(金)	
入学式(別校)	七月二十日(土)	
入学式(別校)	七月二十一日(日)	
入学式(別校)	七月二十二日(月)	
入学式(別校)	七月二十三日(火)	
入学式(別校)	七月二十四日(水)	
入学式(別校)	七月二十五日(木)	
入学式(別校)	七月二十六日(金)	
入学式(別校)	七月二十七日(土)	
入学式(別校)	七月二十八日(日)	
入学式(別校)	七月二十九日(月)	
入学式(別校)	七月三十日(火)	
入学式(別校)	七月三十一日(水)	
入学式(別校)	八月一日(木)	
入学式(別校)	八月二日(金)	
入学式(別校)	八月三日(土)	
入学式(別校)	八月四日(日)	
入学式(別校)	八月五日(月)	
入学式(別校)	八月六日(火)	
入学式(別校)	八月七日(水)	
入学式(別校)	八月八日(木)	
入学式(別校)	八月九日(金)	
入学式(別校)	八月十日(土)	
入学式(別校)	八月十一日(日)	
入学式(別校)	八月十二日(月)	
入学式(別校)	八月十三日(火)	
入学式(別校)	八月十四日(水)	
入学式(別校)	八月十五日(木)	
入学式(別校)	八月十六日(金)	
入学式(別校)	八月十七日(土)	
入学式(別校)	八月十八日(日)	
入学式(別校)	八月十九日(月)	
入学式(別校)	八月二十日(火)	
入学式(別校)	八月二十一日(水)	
入学式(別校)	八月二十二日(木)	
入学式(別校)	八月二十三日(金)	
入学式(別校)	八月二十四日(土)	
入学式(別校)	八月二十五日(日)	
入学式(別校)	八月二十六日(月)	
入学式(別校)	八月二十七日(火)	
入学式(別校)	八月二十八日(水)	
入学式(別校)	八月二十九日(木)	
入学式(別校)	八月三十日(金)	
入学式(別校)	八月三十一日(土)	
入学式(別校)	九月一日(日)	
入学式(別校)	九月二日(月)	
入学式(別校)	九月三日(火)	
入学式(別校)	九月四日(水)	
入学式(別校)	九月五日(木)	
入学式(別校)	九月六日(金)	
入学式(別校)	九月七日(土)	
入学式(別校)	九月八日(日)	
入学式(別校)	九月九日(月)	
入学式(別校)	九月十日(火)	
入学式(別校)	九月十一日(水)	
入学式(別校)	九月十二日(木)	
入学式(別校)	九月十三日(金)	
入学式(別校)	九月十四日(土)	
入学式(別校)	九月十五日(日)	
入学式(別校)	九月十六日(月)	
入学式(別校)	九月十七日(火)	
入学式(別校)	九月十八日(水)	
入学式(別校)	九月十九日(木)	
入学式(別校)	九月二十日(金)	
入学式(別校)	九月二十一日(土)	
入学式(別校)	九月二十二日(日)	
入学式(別校)	九月二十三日(月)	
入学式(別校)	九月二十四日(火)	
入学式(別校)	九月二十五日(水)	
入学式(別校)	九月二十六日(木)	
入学式(別校)	九月二十七日(金)	
入学式(別校)	九月二十八日(土)	
入学式(別校)	九月二十九日(日)	
入学式(別校)	九月三十日(月)	
入学式(別校)	九月三十一日(火)	
入学式(別校)	十月一日(水)	
入学式(別校)	十月二日(木)	
入学式(別校)	十月三日(金)	
入学式(別校)	十月四日(土)	
入学式(別校)	十月五日(日)	
入学式(別校)	十月六日(月)	
入学式(別校)	十月七日(火)	
入学式(別校)	十月八日(水)	
入学式(別校)	十月九日(木)	
入学式(別校)	十月十日(金)	
入学式(別校)	十月十一日(土)	
入学式(別校)	十月十二日(日)	
入学式(別校)	十月十三日(月)	
入学式(別校)	十月十四日(火)	
入学式(別校)	十月十五日(水)	
入学式(別校)	十月十六日(木)	
入学式(別校)	十月十七日(金)	
入学式(別校)	十月十八日(土)	
入学式(別校)	十月十九日(日)	
入学式(別校)	十月二十日(月)	
入学式(別校)	十月二十一日(火)	
入学式(別校)	十月二十二日(水)	
入学式(別校)	十月二十三日(木)	
入学式(別校)	十月二十四日(金)	
入学式(別校)	十月二十五日(土)	
入学式(別校)	十月二十六日(日)	
入学式(別校)	十月二十七日(月)	
入学式(別校)	十月二十八日(火)	
入学式(別校)	十月二十九日(水)	
入学式(別校)	十月三十日(木)	
入学式(別校)	十月三十一日(金)	
入学式(別校)	十一月一日(土)	
入学式(別校)	十一月二日(日)	
入学式(別校)	十一月三日(月)	
入学式(別校)	十一月四日(火)	
入学式(別校)	十一月五日(水)	
入学式(別校)	十一月六日(木)	
入学式(別校)	十一月七日(金)	
入学式(別校)	十一月八日(土)	
入学式(別校)	十一月九日(日)	
入学式(別校)	十一月十日(月)	
入学式(別校)	十一月十一日(火)	
入学式(別校)	十一月十二日(水)	
入学式(別校)	十一月十三日(木)	
入学式(別校)	十一月十四日(金)	
入学式(別校)	十一月十五日(土)	
入学式(別校)	十一月十六日(日)	
入学式(別校)	十一月十七日(月)	
入学式(別校)	十一月十八日(火)	
入学式(別校)	十一月十九日(水)	
入学式(別校)	十一月二十日(木)	
入学式(別校)	十一月二十一日(金)	
入学式(別校)	十一月二十二日(土)	
入学式(別校)	十一月二十三日(日)	
入学式(別校)	十一月二十四日(月)	
入学式(別校)	十一月二十五日(火)	
入学式(別校)	十一月二十六日(水)	
入学式(別校)	十一月二十七日(木)	
入学式(別校)	十一月二十八日(金)	
入学式(別校)	十一月二十九日(土)	
入学式(別校)	十一月三十日(日)	
入学式(別校)	十一月三十一日(月)	
入学式(別校)	十二月一日(火)	
入学式(別校)	十二月二日(水)	
入学式(別校)	十二月三日(木)	
入学式(別校)	十二月四日(金)	
入学式(別校)	十二月五日(土)	
入学式(別校)	十二月六日(日)	
入学式(別校)	十二月七日(月)	
入学式(別校)	十二月八日(火)	
入学式(別校)	十二月九日(水)	
入学式(別校)	十二月十日(木)	
入学式(別校)	十二月十一日(金)	
入学式(別校)	十二月十二日(土)	
入学式(別校)	十二月十三日(日)	
入学式(別校)	十二月十四日(月)	
入学式(別校)	十二月十五日(火)	
入学式(別校)	十二月十六日(水)	
入学式(別校)	十二月十七日(木)	
入学式(別校)	十二月十八日(金)	
入学式(別校)	十二月十九日(土)	
入学式(別校)	十二月二十日(日)	
入学式(別校)	十二月二十一日(月)	
入学式(別校)	十二月二十二日(火)	
入学式(別校)	十二月二十三日(水)	
入学式(別校)	十二月二十四日(木)	
入学式(別校)	十二月二十五日(金)	
入学式(別校)	十二月二十六日(土)	
入学式(別校)	十二月二十七日(日)	
入学式(別校)	十二月二十八日(月)	
入学式(別校)	十二月二十九日(火)	
入学式(別校)	十二月三十日(水)	
入学式(別校)	十二月三十一日(木)	

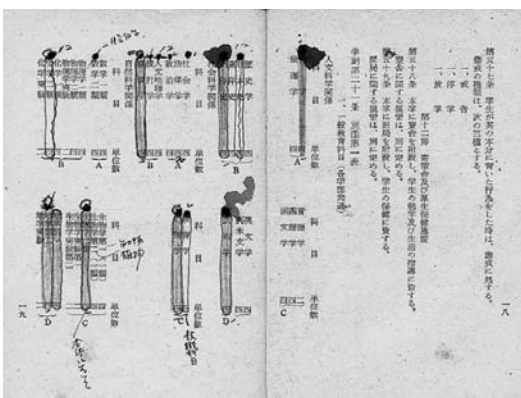
学生定員(第46条)「入学収容定員は、八百九十五名とし」、学部別内訳が以下のように定められていた。

文学部(哲・史・文・社)220名、教育学部(教育・心理・特殊教育・芸術)120名、理学部(数・物・化・生・地)200名、農学部(農・農化・農工・林・農経・総農)190名、体育学部(体育・健康)165名と

あった。各学科の定員は30~50名だが、特殊教育学科と農業工学科は20名と最少、体育学科が110名と最多で、文学科100名がそれに続く。

入学料(第48条)は、四百円、授業料(第47条)は六千円。当時の私学の授業料は2万円台、入学金は数千円であった。ちなみに、寄宿料(第48条の2)は、「年額千二百円」とあった。

左は、履修(第21条)一般教育科目(各学部共通)の部分である。市川氏の書き込みが残っている。入学式(4/11)の翌日はオリエンテーションで、履修説明はそ中で行われた。別頁に市川氏による単位計算の跡がある。「単位」という言辞に戸惑う新入生も多かったと思う。その後、慌ただしく授業開始(4/14)となるが、仮履修登録の期間があったのだろう。



\* 叙述にあたりご登場頂いた方々を敬称略とさせていただきます。ご容赦ください。

## 学生歌の頃

ただいまお聞きいただいた『学生歌』は、故木下義啓先輩が作詞されました。本日、奥様とお嬢様に、ご列席いただいております。音源を探しましたが見当たらず、茗溪会事務局の室岡和彦所長（S46教大数）がバイオリン、大根田裕局長代理（S53筑大数）が歌唱を披露させていただきました。木下先輩が『学生歌』を作詞した経緯が、東京教育大学新聞会OB・OGのホームページに記されていきました。一部紹介させていただきます。

教育大にも新しい校歌のようなものを作ろうという気運のなかで、新聞会内に設けられた学生歌作成委員会が、1955年3月、学内からの公募によって選考・制定したものである。歌詞は応募28編のなかから、国文2年松瀬君と農学2年木下君の2編が佳作上位に選出された。歌詞決定により曲も公募が行われ、健康2年伊藤君と地理3年原君のものが採用された。その後、自治会主催の新生歓迎会ではハトの会コーラス（教育大・お茶大の合同サークル、現在の芸能山城組の源流）の合唱で毎年紹介されていた。

なお、『学生歌』につきましては、お手元にご存じますように、「東京教育大学閉学式典」の葉にご存じました。

昨年11月に挙式された「追悼のつどい」懇談会冒頭の光景である。『学生歌』は、市川氏が入学した昭和30年に作ら

れた。

「追悼のつどい」一週間前の水曜日の午後、中村民雄氏（S48武道）が茗溪会事務局を訪ねてこられた。封筒を抱えていた。「村嶋君の記事を見ましたね、創基150年記念にお役に立てれば」とおっしゃって、封筒を差し出された。中には、東京教育大学閉学式次第、教育学部の閉学部記念誌と記念の文鎮があった。閉学式次第には校歌とともに『学生歌』が掲載されていた。



中村氏は、村嶋恒徳氏の剣道部の先輩であった。こうして、誌上で輪が広がる。また、ご提供いただいた資料によって、例えば『学生歌』の作詞者のご遺族ともども、その縁に思いを馳せる。茗溪創基150年記念事業の真骨頂とも思う。

## 思い出の品々の寄贈（お願い） 茗溪創基150年記念事業

この度、会員の皆様の「茗溪創基150年記念事業」への参加の一つのあり方として、皆様から茗溪の流れに係る「思い出の品々」を寄贈していただく企画を実施しています。

### 1. ご寄贈いただく「思い出の品々」について

- ・「思い出の品々」につきましては、その内容の指定や限定はございません。
- ・ご提供頂く場合、品々に「簡単な説明」等を添えていただければ幸いです。

### 2. 募集期間

- ・茗溪創基150年事業の終わりまで（2023年度）とさせていただきます。

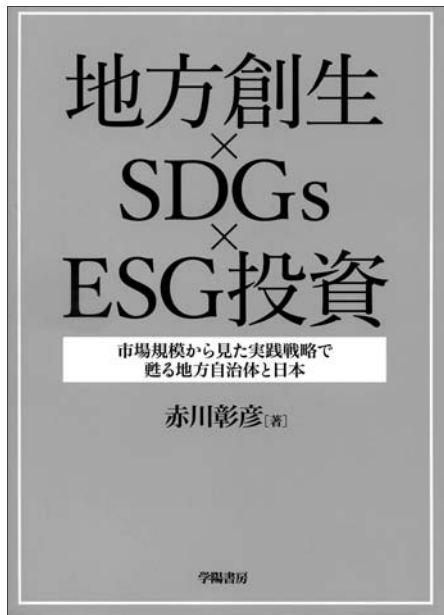
### 3. 送り先

- ・画像ファイルの場合は、メールにて（peer@meikei.or.jp）までお送りください。
- ・アルバムなど思い出の品々につきましては、大塚事務所までご送付ください。

### 4. ご寄贈いただいた「思い出の品々」の活用

- ・ご提供いただいたご寄贈の品々につきましては、『茗溪』Peer Gardenの中で、紹介させていただきます。また、その一部は、『茗溪創基150年記念誌』（仮称）の資料として活用させていただきます場合もございます。
- ・その他の寄贈につきましては、茗溪会活動の中で広く活用させていただきます。





『地方創生×SDGs×ESG投資』  
市場規模から見た実践戦略で甦る地方自治体と日本

著 者…赤川彰彦 (08 筑修企)  
本の大きさ…A5判 全頁384頁  
発行 所…学陽書房  
発行年月日…2020年10月10日

第1編 戦略的 地方創生とSDGs

- 第1章 環境・観光健康産業による戦略的 地方創生
- 第2章 環境産業の現状と市場規模
- 第3章 観光産業の現状と市場規模
- 第4章 健康産業の現状と市場規模
- 第5章 地方創生のための事業と産業
- 第6章 戦略的 地方創生の先導的都市事例

第2編 SDGs・ESG投資

- 第7章 SDGs (持続可能な開発目標)
- 第8章 ESG投資
- 第9章 SBT、RE100、EP100およびEV100  
(目次より)

『緑』

柳は緑 花は紅、全ての出会いは宝物

著 者…柳 久美子 (50年教大体)  
本の大きさ…四六判 全256頁  
発行 所…学事出版  
発行年月日…2021年7月21日

原稿を書きながら「人生万事塞翁が馬」だどづくと思つた。何か一つでも違つていたら、今、私はこういう立場では存在していなかった。小学校、中高、大学、そして職場となった都立高校で、出会つた先生方や関係者の皆様、経験したこと、その全てが今に繋がっている。子どもの頃の父親の転勤、私たち家族の転居までもが、今の自分の「必然だった」と言えるのかもしれない。そう思うと、人との縁は本当に不思議だと思ふ。

(「はじめに」より)



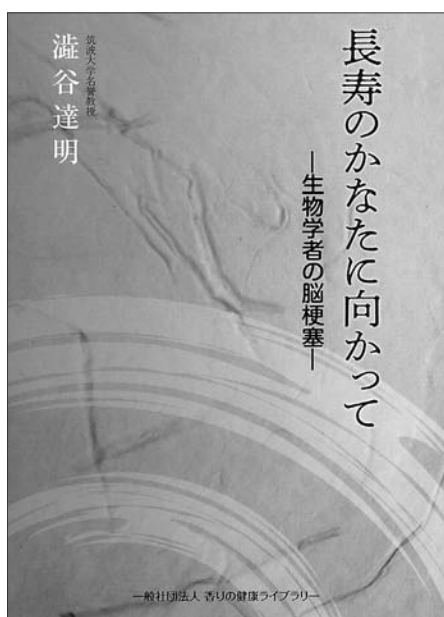
『長寿のあなたに向かつて』

生物学者の脳梗塞

著 者…澁谷達明 (筑波大学名誉教授)  
本の大きさ…四六判 全253頁  
発行 所…(一社)香りの健康ライブラリー  
発行年月日…2022年1月15日

最近男女ともに日本人の寿命がのびてきた。しかしいくら健康的な生活をしていても年齢を重ねるにつれていろいろな病気に見舞われる。さらにヒトには寿命と言うものがあり、それを誰ものがれることはできない。私は80歳後半までは健康で仕事の上でも楽しく暮らしていた。しかし87歳の初夏に脳梗塞を突然発症した。脳梗塞はそれまでの生活習慣にも影響されるとも言われる。そして脳梗塞の患者の症状は個人個人によって全く異なると言っても過言ではない。それは学術的にも未解決の要素が多い脳の病気だからだろうか。リハビリテーションの体験とその重要性を初めとして、私が経験した回復までの過程やメンタル的なものも加えて分かり易く解説した。私は臨床の医師ではないが、少しでも高齢者の皆様のお役にたてれば望外の喜びである。

(著者記)



## 東京茗溪会 第10回総会・話題提供・意見交換会

東京茗溪会は10年目の節目を迎えました。11月27日(日)に第10回総会・話題提供・意見交換会を対面とオンラインのハイブリッド形式で実施しました。

当日の参加は、来場者が(来賓、話題提供者を含め)33名、オンライン参加者が34名、合計67名でした。

### 第1部「総会」

高橋基之会長(自然学類78卒)の開会挨拶が始まりました。来賓挨拶は筑波大学永田恭介学長、指定国立大学法人になったことや柳沢正史教授が睡眠障害の治療薬への貢献でブレークスルー賞を共同受賞されたこと等、大学の紹介もしていただきました。

総会の議事進行は高橋会長が務めました。第一号議案(令和3年度活動報告・決算報告)、第二号議案(令和4年度活動計画・予算案)、第三号議案(令和4・5年度役員・幹事等)については、全て承認されました。

### 第2部「話題提供」

総合テーマは「人を育てる伝統」でした。「茗溪人のアイデンティティを語る」というサブテーマのもと、筑波大学特命教授 真田久様(体育研究科81修)、東京都立八王子東高等学校統括校長 宮本久也様(人文学群80卒)、イーディーエル株式会社代表取締役 平塚知真子様(教育研究科07修)からテーマに沿った話題を提供していただきました。次にその概要を紹介します。

#### 【話題提供1】真田久様

真田様は、筑波大学で教鞭をとられる傍ら、NHK大河ドラマ『いだてん』のスポーツ史考証担当や東京2020五輪の組織委員会参加者としても活躍されました。

演題は「いま、再び加納治五郎へ」。彼の教育論とともに教育界に与えた影響を、時代背景とともに伝えていただきました。

高等師範学校の校長時代には、師範教育のみならず、中等教育、女子教育にも精力を注ぎ、特別支援教育の推進も積極的だったとのこと。我が国のオリンピックは彼なくしては語れませんが、加えて当時から留学生の受け入れ、平和外交などにも注力され、世界的に活躍された先生でした。

「精力善用・自他共栄」はあまりにも有名な言葉ですが、この言葉が世に出たのがちょうど百年前の1922年だそうです。先生が育てた後継者も数多く紹介され、この言葉が茗溪人の精神性を支えているのだと再認識しました。導入で、茗溪創基150年の歴史の源流が江戸時代の昌平坂学問所にあることも紹介されました。人を育てる伝統は、そこから繋がっているのだと歴史を感じました。

#### 【話題提供2】宮本久也様

宮本様は、日本史の教員として都立高校で教壇に立ち、その後は東京都教育委員会指導主事を経て、都立高校で校長を務められています。

「これからの教育に求められること」という演題で、子どもたちを取り巻く



状況が大きく変化している中で、今後の教育がどうあるべきかという視点での話でした。

教育格差が拡大し、生徒の状況が二極化している現在、学力の捉え方も学び方も変化しており、学校も変わっていかねばならない。また、学校という環境の中だけで教育を語る時代ではなくなった

とも。だから学校は、学校でしかできないことを追求する必要があると強調されました。

教育の最終の目的は、自立した生徒を育てること、そのためには教師が自立しなければならぬ。教師自身が「色々なことに興味や関心を持つ」「自ら動いて必要なものを手に入れる」「多くの人とつながる」「自分の拠り所を作る」「人生を楽しむ」ことが大事で、学校の外に出て様々な経験を必要とする人を育てるべきだ。次代を支える人材育成は日本が埋没しない鍵だと思いをしました。

#### 【話題提供3】平塚知真子様

平塚様は、就職、専業主婦、子育て支援のNPOでの活動をを経て、情報学研究所新井紀子研究室で研究支援員を務められました。その時「社会に役立つ

つ企業を作らねば」と決意し起業、筑波大学大学院に進学されたという稀な経歴の持ち主です。現在はGoogle認定トレーナーでもあります。

演題は「Googleのアプリで始めるスマートフォンDX」。70種類以上もある様々なGoogleアプリを活用することで、「やりたいことが短時間で簡単にできる」「どこにいても資料が共有できる」等、具体例を示して紹介されました。しかし「デジタルは2割、すべてをデジタル化する必要はない」とのこと。「新しい時代に必要な新しい学び(ICT活用)をリデザインし、最短最速で習得できる教育コンテンツを開発し、全国に届けたい」というのが目標だそうです。

学校ではGIGAスクール構想が進みICTが身近なものになっている一方で、日本の社会はデジタル化が進んでいない。子どもたちが社会に出たときに社会が追いついていない状況では意味がないと、商工会等にも「スマートフォンDX」を働きかけています。その危機感が妙に納得できました。

### 第3部「意見交換会」

第2部の話題提供を受け、オンライン参加者も含めて、意見交換を行いました。それぞれの話題に対しての質問もあり、その場で回答をいただくこともできました。

最後は、全員で「桐の葉」を歌って閉会となりました。3人の話題提供者が最後まで残ってくださって、会場は閉会まで熱気に包まれていました。

(文責・東京茗溪会副会長

柳久美子 50教大体)



## 令和4年度 大阪茗溪会総会

令和4年11月5日(土)に大阪市の道頓堀ホテルにて大阪茗溪会の総会、講演会、懇親会が開催されました。コロナの影響を受け、中止が続き、実に3年ぶりの対面での開催となりました。

なお、本総会は、数年前より大阪茗友会との共同で開催をしております。大阪茗友会とは、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京体育専門学校、東京教育大学、筑波大学において保健体育を専攻した者による組織であります。

寺脇久人顧問(54筑体)の開会の言葉、松本秀範会長(53修林)の挨拶(写真1)に続き、茗溪会本部より来賓としてお越し

いただいた廣田則夫理事(53筑一社会)よりご挨拶をいただきました。廣田理事からは、本部の動向や「茗溪会館」の活用についてお話をいただきました。奈良茗溪会よりご出席いただいた吉岡寛人様(平10筑体)からも、東京での仕事等の拠点として茗溪会館をご使用に



写真1 挨拶する松本会長

なられている様子などをご報告いただきました。上京した際はぜひ活用したいものです。

総会は、松本会長を議長として、事業報告、事業計画、会計報告と、円滑に進められました。とりわけ、役員人事では、メンバーが大きく刷新され、大阪茗溪会は新たなスタートをきりました。松本秀範会長、南貴夫副会長(43

体)岡村多加志理事長(55筑一自)の三名が顧問に就任され、新たに戸井田克己幹事長(59筑二比)が会長に、中敷久実子理事(59筑芸)が副会長に、近藤潤幹事(61筑修体)が理事長に、そして北邨淳副幹事長(H19筑体)が幹事長に就任しました。戸井田新会長からは新たな大阪茗溪会の船出について力強く決意が述べられました。

総会後、「登記制度の歴史と今日的課題」という演題で、香山恭慶様(大阪司法書士会会長・57筑一社)よりご講演いただきました。香山様は、MKS(茗溪関西・教育研究・産業人会議)の会長でもいらっしやいます。今回の総

会は、MKSとの共同開催は叶いませんでしたが、今後は、教職関係のみならず、様々な業種間での交流ができることが楽しみです。

香山様からは、登記制度の歴史を、貴重な資料とともに解説いただきました。また、現在の登記をめぐる課題や相続に関わる問題等、私たちの生活に関わる非常に興味深い内容であったため、講演での質疑応答はもちろん、その後の懇親会でも話題は尽きぬ様子でありました。

講演会後の懇親会では、久々の対面開催ということもあって、大いに盛り上がりました。中

敷新副会長の素晴らしい司会の下、あたたかい時間を会員の皆様と共有することができました。感染に留意しながらの懇親会であったため、コロナ前と同じようにはできない部分もありましたが、それでも顔を合わせて語り合える場合は、何物にも代えがたい時間であると感じました。参加された皆様からは「やはり、対面での開催が良いです



写真2 集合写真撮影の様子

ね」といったお言葉が聞かれました。懇親会では、ご出席いただいた皆様全員から、近況報告をしていただき、終始、和やかな雰囲気での懇親会を終えることができました。

会の最後は、宣揚歌「桐の葉」です。近藤新理事長の音頭で1番と2番が歌われました。その後、記念撮影に移り(写真2)、散会となりました。

1日を通して、感染対策にご配慮いただいた道頓堀ホテル様に心より感謝申し上げます。

本総会への出席者は、19名でした(内1名はZoomでの参加)。出席者の人数は、例年と比べると少なく、また、参加者はやや減少傾向に

ある現状ですが、今後もMKSとも連携をとりながら、大阪茗溪会の活動を盛り上げ、運営を進めていく所存です。最後になりましたが、遠方よりお越しいただいた廣田理事に心より感謝申し上げます。コロナ感染症の一日も早い終息と、茗溪会会員皆様の健康とご多幸をお祈りいたします。

(北邨淳記)

◆東京教育大学体育学部昭和47年入学生「第4回同窓会」

と き 令和4年10月8日

と ころ びわ湖大津プリンスホテル「伊吹」

コロナ禍で開催が1年遅れていた「第4回同窓会」を、日本一の湖「琵琶湖」畔で開催しました。今年是我々が出会って50周年の記念の年で、体育学科25名、武道学科9名、健康教育学科8名、合計40名が参集し、当時の思い出話し、楽しい年金生活話し、親の介護話しなどで盛り上がり、前回に続き、一次会3時間、二次会2時間のロングラン「同窓会」となりました。次回は3年後を目途に、東京近隣での再会を約束し「お開き」となりました。

(実行委員長 北 克則)



◆第53回明治神宮野球大会出場決定戦（筑波大学 VS 創価大学観戦報告）

と き 令和4年11月7日

と ころ 神宮球場

野球部員が応援席で並んで70人ほど立っている前にスックと立って、3枚の横断幕を掲げてかざしました。4年前を知っている専攻科の学生とも会いました。試合は宿敵創価大学に負けてしまい、勝ち進んでいれば11/8・9・10と11/18神宮大会をも声援するつもりでしたが、11/7午後だけでお別れでした。今回の応援はチアガール15人、学ラン姿の女子部員2人と華がありました。

(野中 祥敬：39教大農工)



(筑波大応援部WINS提供)

「桐の葉のつどい」の掲載について

以下の要領で写真と原稿をお寄せください。

(写真) フィルムカメラ、デジタルカメラのいずれで撮影したもので構いません。紙焼きでも、デジタルカメラの場合はデータをメールでお寄せいただいても構いません。

(文章) グループの名称、お集まりになった「とき」「ところ」を別項にして、必ずお書き下さい。会の模様を紹介する文章は31文字×5行以内でお願い致します。



## 追 悼 録 (敬称略)

逝去会員氏名・卒年科・地域・  
逝去年月日・続き柄・遺族氏名

醍醐 敏郎	22体	東京	R3.10.10	妻	醍醐 静子	直江 勇	31教大健	福島	H31. 3.30	妻	直江 潤子
山田 清實	22農教	岡山	R4.10.18	長男	山田 憲治	大島 雅夫	31教大地	千葉	R4.10.18	長男	大島 健彦
飯田 宣雄	22農教	神奈川	H24. 3.20	三女	飯田 秀枝	大野 昌彦	31教大日史	東京	R4. 8. 3	次女	大野麻奈子
山岸 高旺	22理三	神奈川	R4. 6.25	長男	山岸 明彦	大和田貞夫	32教大英	茨城	R4. 7.27	妻	大和田洋子
安齋 泰見	23体	福島	R4. 9. 3	次男	安齋 彰夫	森 団	32教大経	岡山	R4. 6.21	次女	岡本加栄子
田中 信一	23農教	福井	R4.10.22	長男	田中 雅信	島田 四郎	32教大健	兵庫	R4. 2. 3	妻	島田美智子
古藤 怜	24大教	新潟	R4. 9.12	長男	古藤 卓	保阪 俊男	32教大健	山梨	R3. 2.22	娘	林 浩子
長坂 晃	24大國史	静岡	R4. 2. 9	長女	杉浦 珠美	川崎 光男	32教大農工	神奈川	R4.11.22	妻	川崎 君枝
大場 恒一	24文四	宮城	R3.11.16	長女	佐藤 友子	日野 嘉輝	33教大健	北海道	R3.12.15	妻	日野 京子
小鹿野友平	25体	埼玉	R4. 8.12	長男	小鹿野孝之	古谷 嘉邦	33教大健	神奈川	R3.10.31	長男	古谷 和久
井出耕一郎	25大化	東京	R4. 9.19	長男	井出 敏樹	進藤 隆博	34教大地	神奈川	R3. 6.10	長男	進藤 隆秀
星野 篤	25農教	福島	R4. 7.29	妻	星野サタ子	平木 克佑	35教大國	鳥取	R4. 5. 5	妻	平木 松代
徳重 久雄	25文三	東京	R3.12.14	妻	徳重久美子	細野 英夫	35教大総農	東京	R4. 1.11	妻	細野 静子
清 忠一	25理二	静岡	R4. 2. 2	妻	清 由美子	岡野 照	35教大経	千葉	R4.10.17	長女	岡野美和子
澤田 賢昭	27体	神奈川	R3. 9. 6	妻	澤田 京子	屋井 征雄	36教大法政	東京	R4. 4. 4	妻	屋井由起子
鈴木 誠司	27体専	静岡	R4. 8.21	妻	鈴木はるみ	高田 和夫	37教大植	茨城	R4. 9. 2	長男	高田 知己
山本恒太郎	27大地	東京	R4. 9.25	妻	山本 恒子	藤原 功達	37院修教	神奈川	R3. 3.16	妻	藤原 恭子
井上 英雄	27農教	埼玉	R4. 8.29	妻	井上 郁子	岩本 玲子	38教大体	静岡	R4. 5.16	長男	岩本 知大
櫻庭 一郎	28教大英	東京	H30. 8.15	妻	櫻庭 武子	結城 勝夫	38教大体	福島	R4. 4.22	妻	結城ツネ子
稲田 順一	28教大物	神奈川	R4. 8.28	長男	稲田 明弘	樋口 禎一	38院博教	神奈川	R4. 3.15	妻	樋口 由枝
池川 敏幸	29教大工芸	香川	R4.10. 1	長男	池川 直樹	野口 鐵郎	39院博東史	東京	R4.10.23	孫	野口梓太郎
角谷 文昭	30教大教	埼玉	R4. 6.18	妻	角谷 幸子	蛭田 政弘	42教大哲	茨城	R4. 7.29	妻	蛭田かほり
豊田 治視	30教大健	香川	R4. 4.30	長男	豊田 耕治	井尾 州宏	50教大体	愛知	R4. 5.14	妻	井尾 詩絵
森田 啓吾	30教大心	兵庫	R3.11. 2	妻	森田 絹子	根岸 甫	23筑修教	埼玉	R4. 7.22	妻	根岸 知子

### ◇公開講座延期のお知らせ

令和4年11月17日(土)に予定されておりました公開講座は、諸般の事情により以下のように延期になりました。

「教育における茗溪の伝承と創造」

江田昌佑 先生

年月日…令和5年2月25日(土)

時間…14時～16時

場所…茗溪会館4F

基調講演の後にシンポジウムと意見交換会あり。オンライン対応

### ◇第37回教職研修会

年月日…令和5年

2月17日(金)

開講式

講義(各種演習解説)

演習(論作文・個人面接・

集団面接・討論)

2月18日(土)

受験体験談

講義(論作文講評)

演習(論作文修正)

講義(模擬授業解説)

質疑応答

会場…筑波大学体芸棟4F

対象…筑波大学の学群生

及び大学院生

申込…令和5年1月31日(火)

問合せ…茗溪会筑波事務所

電話029-850-1044

tsujimu@meikei.or.jp

# 筑波大学は今

## ブラジル科学技術省のJose Gontijo 副大臣が永田学長を訪問

11月24日、ブラジル科学技術省の Jose Gontijo 副大臣、Carlos Eduardo HIGA MATSUMOTO 総合ローディネーター、Guilherme GONDIN 駐日ブラジル大使館二等書記官・科学技術協力部長一行が本学に訪問し、永田恭介学長、ベントン キャロライン 副学長（国際担当）、アランニャクラウス デカステロ助教、桑原 達也副理事（国際担当）と懇談されました。懇談時には、今後の連携の可能性について話し合い、本学とブラジルとの連携のさらなる強化への期待を表明されました。

今後、ブラジルとの益々の交流と連携の促進が期待されます。



## 「筑波大学社会的価値創造債」 第1回国立大学法人筑波大学債券を発行

このたび、筑波大学は、社会とともに新たな社会的価値に根ざした未来社会の創造を目指し、「筑波大学 Vision 2030」のもとで実施する「筑波大学社

会的価値創造事業」を積極的に展開するため、「第1回国立大学法人筑波大学債券」（愛称「筑波大学社会的価値創造債」）の発行条件を決定しました。

大学債券の発行は、国立大学法人としては東京大学、大阪大学に次いで3例目、サステナビリテイボンド（※）としての発行は大阪大学に次いで2例目となります。

※調達した資金が、地球環境および社会的課題解決双方に資するプロジェクトに充当される債券

サステナビリテイボンドの発行に際し策定したプレミアムワークは、国際資本市場協会（ICMA）が定める原則及びガイドライン、環境省及び金融庁が定める各ガイドラインに適合しており、株式会社格付投資情報センター（R&I）からセカンドオピニオン（第三者評価）として「適合」の評価を受けています。

本起債によって調達した資金は、2022年4月に策定した「筑波大学 Vision 2030」により、本学が社会とともに新たな社会的価値に根ざした未来社会を創造するために取り組むプロジェクトに充当します。

これまでのモットーを表す「IMAGINE THE FUTURE」、開かれた未来を構想することを基盤に、「Beyond the Borders」という方法でその実現に挑戦し、「DESIGN THE FUTURE, TOGETHER」、社会とともに未来社会を創造することを宣言し、わたしたちは多様なステークホルダーの皆様とともに未来社会の創造に向け

て果敢にチャレンジし、筑波大学の使命に全力で取り組んでまいります。

## 第48回筑波大学学園祭「雙峰祭」を開催



第48回筑波大学学園祭「雙峰祭」が、11月5日および6日に開催されました。事前予約制で来場者数を制限して実施した対面企画と、オンラインによるステージイベントの生配信や物販など、ハイブリッド形式での実施となりました。

石の広場での屋外ステージ企画以外は、感染対策を施した上で、教室内での屋内実施としました。制限はあったものの、音楽ライブやダンスパフォーマンス、展示企画や飲食企画など、130件以上の企画が立ち並び、学生たちは日頃の研究活動やサークル活動の成果をさまざまな形で表現し、キャンパスが賑わいました。オンライン配信も充実し、新しいスタイルの学園祭となりました。

両日合わせて延べ約7,000人が来場、オンラインコンテンツは延べ19,000回ほど再生され、今年のテーマ「Invigorate The Festival」（祭りを盛り上げる）にふさわしい、活気に満ちて大いに盛り上がった2日間となりました。

## 都甲薫准教授が「つくば奨励賞（若手研究者部門）」を受賞

茨城県内で研究活動を行い、今後飛躍的な研究成果が期待される40歳以下の若手研究者に贈られる「つくば奨励賞（若手研究者部門）」が11月15日に発表され、2022年度受賞者に本学数理物質系の都甲薫准教授が選ばれました。

受賞の対象となったのは、「高機能性多結晶薄膜の低温合成とデバイス応用に関する研究」です。半導体デバイスの製造プロセス技術、特に、今後重要となるフレキシブルデバイスに関する先駆的な研究で、ガラスやプラスチックなどの基板上に、IV族系半導体を中心とした多結晶薄膜を製作する技術開発において多くの成果を上げており、低コストの太陽電池や低消費電力・高速で動作するフレキシブルトランジスタ回路といった、新たなIoTデバイスの実現につながる基盤技術を大きく進めたものとして評価されました。

受賞にあたって都甲薫准教授は「荣誉ある賞をいただき大変嬉しく思っております。多くの共同研究者の方々にも深く感謝します。半導体プロセスは比較的地味な研究分野ですが、本賞の名に恥じぬよう、今後も精進して参ります」とのコメン



都甲薫准教授



# 茗溪学園だより

## 公開シンポジウム2022開催

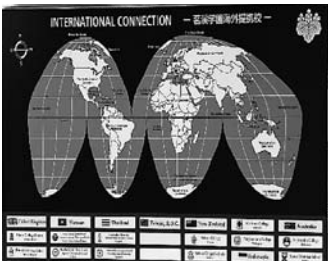
本校が開設した「アカデミアクラス」(昨年度中学1年生に2学級開設、今年度は中学1、2年の各2学級で展開)での教育実践を題材にし、これからの中等教育をテーマとしたシンポジウムが開催されました。

12月4日、つくば国際会議場を会場に、昨年に続く開催でした。生徒、保護者参加型、三部立てでパネルディスカッションなどが行われ、オンラインも含め多くの参加者がありました。活発な意見交換が行われ有意義なシンポジウムとなりました。

本校が目指す教育の一つは、高等教育に積極的に取り組むことの出来る生徒を育むことです。従来の受験スキルの習得を第一とする学習の在り方を反省し、本来あるべき中等教育を実践したいと、アカデミアクラスを設けました。この先の時代を力強く生きていくための実力を備えた生徒を育成するためにも、基礎的、基盤的な学理への正しい姿勢を中学時代から身に付けさせようとするものです。



第3部 各教科からの実践報告のようす



海外提携校を示す掲示板  
(校長室前廊下)

留学や交流に留まらず、単位の互換やダブルデイズ、イグリーまで発展させていくよう進めていく考えです。

## 国際基督教大学(ICU)と高大連携

12月1日、

国際基督教大学と茗溪学園高校との間で高大連携の調印が行われました。内容は双方が包括的に協議し推進していく、というものです。IB教員養成コースからの教育実習の受け入れ、本校での大学説明会、入試説明会の開催などが含まれます。12月19日には、本校の留学生ら11名が、東京都三鷹市を訪問しました。校内を案内していただいたりカリキュラム等の説明を受けました。



ICU正面玄関前で記念撮影

## 国際交流活動

海外の学校との提携を積極的に進めてきた結果、各国を代表するような名門校との間で交流が行われるようになりました。来年度からは、短期では100名以上、中長期では30名以上の生徒が、姉妹校に留学または交流訪問するようになります。さらに、このような交換

## トレーニング棟最高賞

今年度完成した木造二階建てのトレーニング棟(本誌夏号で紹介)が、「いばらきデザインコレクション2022」で空間・建築部門の最高賞「知事選定」を受賞しました。また、「ウッドデザイン賞2022」の、ハートフルデザイン部門・建築空間分野でも受賞しました。この建物は、設計・デザイン、構造計算、内装装飾作品、外構デザイン・工事を、卒業生(第16回卒業生ら)がチームになって作り上げました。母校に対する思いのこもった作品と言えます。喜ばしい受賞となりました。

## 高校バドミントン部 全国選抜大会に

12月に開催された関東高校選抜大会に出場したバドミントン部は、団体戦で男女共に3位、個人戦ダブルスでも男女共に3位という過去最高の結果を残しました。これにより、男女それぞれのダブルスは、3月に岩手県で開催される第51回全国選抜大会に出場する

ことになりました。4組しか出場できないという激戦区の関東代表として、全国の舞台でも活躍してほしいと思います。

## 高校生科学技術チャレンジ

第20回高校生・高専生科学技術チャレンジの最終審査にまで進んでいた高校3年生の研究「バラのアレロケミカルに関する研究」(前号では植物学会での受賞を紹介)が、審査員奨励賞を受賞しました。このチャレンジでは、平成25年度に2研究(花王特別奨励賞、審査員奨励賞)、うち一つは国際大会出場、平成30年度も2研究(科学技術振興機構賞、優秀賞)のうち一つが国際大会出場などの実績を残しています。これからも多くの生徒のチャレンジを後押ししていきます。



甲府市の会場体育館前にて

## 部活動報告(試合結果など)



- ◎高校ラグビー部：全国大会出場(11年連続28回目)決勝戦は5年ぶりに清真学園との対戦だった。スコアは24-6
- ◎中学ラグビー部：第42回東日本大会準優勝(20回目の優勝ならず)、第28回全国ジュニアラグビー大会出場(年末、東京)
- ◎高校バドミントン部：ジュニアオリンピックカップ全日本ジュニア大会出場
- ◎高校野球部：秋季関東大会準優勝
- ◎書道部：県総文祭1名準大賞・入選来年度全国総文祭(鹿児島開催)に出場、その他8名入賞



- ◎中学剣道部：県大会で男女団体戦優勝。個人戦も男女とも優勝。過去最高の結果残す。

# 令和4年秋の叙勲

おめでとございます(敬称略)

瑞宝中綬章	佐伯 聰夫	40教大体	43院修体	(栃木)
三浦 望慶	38教大体	39専攻	(新潟)	(湯)
瑞宝小綬章	二本松義公	51教大木工	(福島)	(島)
武井 秀一	50教大化	(茨城)	(城)	(城)
中村 一夫	50教大数	(茨城)	(城)	(城)
早川 源一	51教大東史	(茨城)	(城)	(城)
秋山 久行	52教大数	(茨城)	(城)	(城)
中村 幸広	50教大数	(静岡)	(岡)	(岡)
向田 茂	49教大日	(兵庫)	(庫)	(重)
伊藤 高次	48教大倫	(三重)	(重)	(重)
瑞宝双光章	大賀 龍夫	51教大健	(福岡)	(岡)

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

## 訂正

前号(令和4年秋号)で誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

### P19「著書紹介」ゲーリーシステムの研究

左から6行目中頃  
 (正) 1908年から行われていた。  
 (誤) 1980年から行われていた。

## 広報

### ▽公益財団法人 柴田育英会だより

11月27日(日)に開催を予定されていた、奨学生・柴田育英会役員・奨学生OB・OGが集う「奨学生懇談育成会」は今年もコロナ禍のため中止となりました。

### ▽季刊誌「茗溪」の送付と会費について

季刊誌「茗溪」は年4回(春号・夏号・秋号・正月号)、完納会員(会費を全35回納入された方)及び会費を現在納入(過去3年以内)されている会員の皆様へお送りしております。したがって、完納会員以外の方で会費の納入が3年以上滞りますと季刊誌「茗溪」はお手元に届かなくなります。

つきましては、会費納入中の会員の皆様におかれましては、全35回までの会費の継続納入をくれぐれもお願ひ申し上げます。季刊誌「茗溪」には各号に会費納入用の払込書を同封しております。また、会費納入はクレジットカードによる年1回の支払いにも対応しております。詳細は事務局までお問い合わせください。

### ▽季刊誌「茗溪」の宛先不明戻りについて

季刊誌「茗溪」は現在、毎号13000部ほどを発送しておりますが、毎号100部前後が宛先住所不明で戻っております。

つきましては、ご引越し等で現住所が変更になった場合は事務局へご連絡をお願いいたします。(事務局)

### 表紙の言葉

今年の表紙写真は、各地の四季の風景をお届けします。

筑波大学のある茨城県の北部の海岸では、快晴無風の冬の朝、放射冷却により海水温と気温の差が大きくなると蒸気霧が発生して幻想的な風景が現れます。太陽が昇り気温が上昇すると、瞬間に霧は晴れて行きます。

今年こそコロナ禍の霧が晴れて、日本国中が明るい光に包まれますように。

(広報委員 鈴木一弘)

### 編集後記

昨年は、コロナ禍の影響で、なかなか当初予定どおりとはならない部分もありましたが、皆様のご理解及びご協力の元、茗溪創基150周年記念式典の開催をはじめとした各種活動ができたことに、御礼申し上げます。

本年は、筑波大学開学50周年を迎えます。茗溪会としても、更なる同窓会の活性化に尽力して参りますが、季刊誌「茗溪」もその一助となるよう努力して参りたいと考えていますので、皆様の忌憚のないご意見ご要望をお待ちしています。

次回は、2023年4月15日の1116・春号を予定しています。(事務局)

### お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めにお願ひいたします。

令和5年1月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

〒112-0012 東京都文京区大塚一五二二

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一七六七四

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇一四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

TEL 〇二九一八五〇一〇四四

FAX 〇二九一八五〇一〇四五

E-mail tsujimura@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社



— 筑波大学の知の発信 —  
**筑波大学出版会**

**IBDフェローのための  
First Aid  
マニュアル**

秋山慎太郎 著  
松岡克善 監修



IBDフェローとして米国で最新医療の研鑽を積んだ著者による、日本の診療シーンで活用できるIBD初学者へ向けた指南書

A5判並製 144頁 紙版・電子版  
ISBN 978-4-904074-71-8 (紙版) C3047 定価 3,850円

**移住労働と  
ディアスポラ政策**

— 国境を越える人の移動をめぐる  
送出国のパスベクトイブ

明石純一 編著



アジアを中心に自国外で働く移住労働者の国際移動の現状・政策・問題構造を、送出国側の政策などとあわせて多角的に考察・分析

A5判並製 344頁 紙版・電子版  
ISBN 978-4-904074-73-2 (紙版) C3036 定価 6,050円

刊行予定

**日常のかたち**

— 美学・建築・文学・食

対馬美千子 編集  
山口恵里子 編集

(令和5年4月26日刊行予定)

販売・丸善出版

**株式会社 阿部兄弟建築事務所**  
平成26年度東京ワークライフバランス認定企業

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032  
東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル  
代表取締役 **荒井 豊人** (昭和57筑基工)  
TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

経営・労務・年金etc. コンサルタント  
**福岡経営労務事務所**

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3  
TEL 03(3607)0551 FAX 03(5876)4338

所長 福岡 一雄 (32教大法政)  
社会保険労務士

**株式会社 岩手チキン工房**  
— みんなに笑顔をお届けします。—

代表取締役社長 **田中 修** (昭54筑農林)

〒028-3309 岩手県紫波郡紫波町北日詰字城内85-1  
TEL: 019(676)4121 FAX: 019(676)4464  
<http://www.i-c-koubou.co.jp>

**FXC**  
Future X Communications

**FXC株式会社** <https://www.fxc.jp/>  
当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。  
創業者：代表取締役社長執行役員 谷輪 重之 (93筑修経営)

印刷・製本までトータルに対応  
**株式会社 ケイエスアイ**

本社 〒557-0063  
大阪市西成区南津守7-15-16  
TEL 06-6652-8000 FAX 06-6652-8894

**株式会社 長谷工 コーポレーション**  
HASEKO

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号  
電話 03(3456)4501

取締役専務執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)

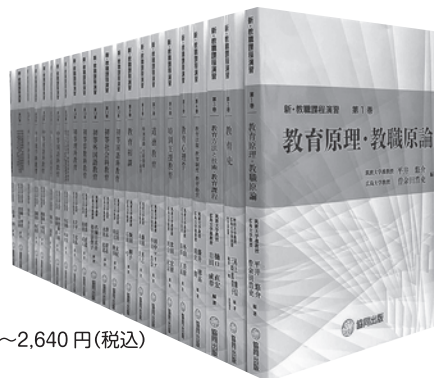
筑波大学教員、広島大学教員初のコラボレーション!

**新・教職課程演習**  
全22巻

筑波大学人間系教授 清水美恵 監修  
広島大学大学院教授 小山正孝

明治時代から我が国の教員養成をリードしてきた筑波大学教育学学位(大学院)プログラムと、広島大学大学院人間社会科学研究所(旧大学院教育学研究科)の専任教員が編者として初めて協力する画期的な演習シリーズ。我が国の教員養成の質向上を一段と図ります。

A5判・並製  
定価：1,650円～2,640円(税込)



**協同出版**

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5  
TEL.03-3295-1341 FAX.03-3233-0970 HP.<https://kyodo-s.jp>

「新・教職課程演習」全22巻

(株)ブライダルは  
筑波大学同窓会会員の  
皆様の「結婚」を応援します。

 **Bridal**



# 結婚

## 45年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に筑波大同窓会の皆様には平成17年より「筑波大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「茗溪」を見たとおっしゃってくだされば、茗溪会の皆様は登録料100%OFFにてご入会頂けます。

# 筑波大コース

登録料33,000円(税込)  
100%OFF

お問い合わせ  
(月曜定休)



0120-415-412

詳しくはホームページをご覧ください。

(株)ブライダル

検索



ホームページ <http://www.bridal-vip.co.jp>



1978年創業  
株式会社

**ブライダル**

東京本社  
名古屋本社

〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F  
〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F



広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012

東京都文京区大塚1丁目5番23号

電話 03(3941)0136

FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ http://www.meikei.or.jp



安全に、快適に、正確に

大曾根タクシー株式会社

代表取締役 塚本 育子

☆お迎え料金無料

☆カード利用 OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス http://www.taxi.e-tsukuba.jp

フリーダイヤル 0120-000-302

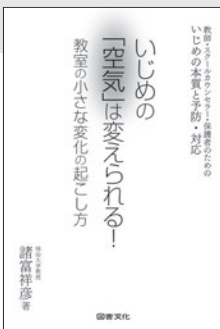
各営業所に通じます

教師・スクールカウンセラー・保護者のための いじめの本質と予防・対応

# いじめの「空気」は変えられる！ 教室の小さな変化の起こし方

明治大学教授 諸富祥彦 著

四六判 208頁 定価1,760円



「空気に逆らえない」が、いじめの本質。  
打ち破るために必要なものは何か？

- 空気がいじめをエスカレートさせる仕組みを、いじめの3つのタイプから解説。
- 小さな変化を起こす力を育てる、脱いじめ教育と授業の7時間プログラムを提案。
- カウンセリングのプロである著者が、子ども・保護者面談のポイントを紹介。

おもな目次

1章 いじめの本質とは  
2章 現在のいじめの特徴  
3章 「空気」が止まらなくなる3つのパターン  
4章 「脱いじめ教育」の全体構想  
5章 授業で行う「脱いじめプログラム」

6章 「脱いじめ」のカギは教師の本気度！  
7章 いじめられている子どもへの4つの禁句  
8章 被害者への対応  
9章 加害者への対応  
終章 いじめから子どもを本気で守るための提言

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15  
http://www.toshobunka.co.jp/

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

Meikei-  
Making  
the  
Difference



Meikei  
High School

茗溪学園中学校高等学校

\* 茗溪学園は1979年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆ 寮のある学校です  
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆ 国際バカロレアIBDP課程認定校です
- ◆ 「知識」「体験」「考え方」  
——とことん学び身につけます
- ◆ 部活動が盛んな文武両道の学校です
- ◆ 多くの海外姉妹校があり、交流が盛んな学校です

「個人課題研究発表会」  
(筑波大学後援)開催のお知らせ

期日：令和5年3月9日(木)

会場：茗溪学園内

内容：本校高校2年生個人課題研究(優秀研究)  
口頭発表・ポスター発表など

(一般公開などの情報につきましては、ホームページまたは下記メールでお問い合わせください)



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、  
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」  
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)